

目次

2021年～2022年秋 新刊のご案内	2
これから刊行する書籍のご案内	25
新刊の紹介動画 YouTube で配信中	31
テキストのご案内	32
電子教科書について	38
雑誌「日本文学」発売中	39
製作協力した電子学術雑誌	39
ウェブマガジン 未草のご案内	39
いま、感動詞研究が熱い！	40

未 発

2022 年 秋冬

ジュニア版

【ひつじ書房新刊・近刊案内】

未発ジュニア版 2022 秋冬
電子版 (PDF) はこちら→



房主より

これまで、対話ということを考えてきまして、これからは対話が重要であるということを使い、そのためにことばの研究が重要と思ってきました。言語の出版社はそのことに関わることで社会に貢献することもできるのではないか、出版の社会的な存在意義もあるのではないか、さらにはそれによって社会的に職業として生活できることになるかと思ってきました。しかしまた、『市民の日本語』(加藤哲夫)を刊行して、しばらくして対話が成立すること自体が容易なことではないのではないかと思います。対話が始まるためには相手のことを聞かないといけませんし、相手にもこちらのいうことを聞いてもらわなければなりません。とすると批判からはじめてしまうと困難になります。聞くということが起こらないと対話をはじめません。批判しないで聞いたり、話すことができるのか。批判しないとしたら対話する意味はあるのか。違う人間が話しをするから対話になります。個があって人は別々であるという前提があったとしても個と共同を対立的に考えない方がいいという考えもあるかも知れません。しかし、批判ではなく同意からはじめるといふのなら、同じ考えなら対話はないともいえます。どうしても難問です。対話はことばの問題でしょうか。哲学の問題でしょうか。ことばがかみ合うということが幻想なのか。どこからはじめればよいのでしょうか。できれば、あまり心構え的ではない方向で考えたい。まずは、研究者の方に聞くということについて研究論集、研究の著作を作って下さるようお願いしたいと思います。



Twitter アカウントと YouTube チャンネルはこちらから。
ぜひフォロー & チャンネル登録お願いします！



Twitter

@hituzi_gusa

https://twitter.com/hituzi_gusa



YouTube

straysheep 2020

https://www.youtube.com/channel/UCT8t_I8nBbAMB1boi71s-4w



ひつじ書房

〒112-0011

東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

<https://www.hituzi.co.jp/>

e-mail toiawase@hituzi.co.jp

tel 03-5319-4916 fax 03-5319-4917



💡 印のついているものは、2022年刊行の新刊です。

ひつじ研究叢書(言語編)

第160巻 **認知言語学の最前線** 山梨正明教授古希記念論文集

児玉一宏・小山哲春編

A5判・416頁・978-4-89476-993-9 定価9,800円+税 発行2021.5

長く日本の認知言語学研究を牽引する山梨正明教授の古希を記念して編まれた論文集。認知言語学の分野の最前線で活躍する研究者を執筆者に迎え、いま研究の最先端で何が行われているかを紹介するとともに、今後の課題を示し、これからの認知言語学研究の礎となる書。執筆者：ロナルド・W・ラネカー、吉村公宏、高橋英光、野村益寛、中村渉、堀江薫・江俊賢、榎山洋介、菅井三実、谷口一美、早瀬尚子、大森文子、八木橋宏勇、松本曜、大月実、森雄一、篠原和子、堀田優子、渋谷良方

第162巻 **日本語文法史の視界** 継承と発展をめざして

高山善行著 A5判・304頁・978-4-8234-1008-6 定価6,400円+税 発行2021.3

本書は、日本語文法史の開拓的研究をまとめたものである。古代語の助動詞を中心に、現代語との対照の観点から基礎的、実証的研究を行なっている。「名詞句」「モダリティ」「疑問文」「配慮表現」を取り上げ、それぞれの研究において新しい視点、分析方法を提示する。また、「とりたてとモダリティ」「テンス・アスペクトとテキスト構造」など、研究テーマの接続も試みる。この分野の研究領域を見通し、領域拡張の基点となる書。

第172巻 **連濁の規則性をもとめて**

平野尊識著 A5判・216頁・978-4-8234-1019-2 定価4,800円+税 発行2021.5

複合語における連濁形・非連濁形の生起を規則によって説明する試みである。その前提として、右枝条件など連濁を阻止する制約を再吟味するとともに、世界の言語の複合語の構成を概観した。複合語化には前項と後項を結び付ける要素の存在が必要なこと、このような要素はかつて日本語にも存在し、それが連濁の発生へと繋がったことを指摘した。また、規則化の問題点が明らかになったことから、連濁研究の今後の方向性を示したと言える。

第173巻 **語法と理論との接続をめざして**

英語の通時的・共時的広がりから考える17の論考

金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編

A5判・384頁・978-4-8234-1020-8 定価6,000円+税 発行2021.9

本書は、英語における様々な言語現象に対して、共時的・通時的な側面から、正確に記述し、理論的な説明を行った論考を17編収録した論文集である。どの論考においても、語・句・構文・談話レベルにわたる様々な語法に対して、記述的にも理論的にもバランスのとれた分析を行うことで、英語における語法研究と理論研究の懸け橋となる1冊である。執筆者：家入葉子、石崎保明、植田正暢、内田充美、大谷直輝、樗木勇作、金澤俊吾、岸浩介、木山直毅、久米祐介、柴田かよ子、中村文紀、縄田裕幸、平沢慎也、廣田友晴、藤川勝也、松山哲也、柳朋宏

第175巻 **テキスト語彙論** テキストの中でみることばのふるまいの実際

高崎みどり著 A5判・248頁・978-4-8234-1054-3 定価4,800円+税 発行2021.3

本書は、実際のテキストの中での語の働き・ふるまいを観察し、テキストの展開と関係づけて論じるテキスト分析をめざしている。“テキスト構成”や“語彙的結束性”といったテキスト分析の概念を、語の辞書的“意味”の捉え直しや、近代語テキストにおいて重要性を増す“漢語”や“名詞”の役割、コ系やド系指示語の機能の再発見等と関連づけて具体的に論じ、文体論やCDA(批判的ディスコース分析)にも目配りしている。



第177巻 日本語複文構文の機能論的研究

田中寛著 A5判・434頁・978-4-8234-1057-4 定価 8,800円＋税 発行 2021.2

日本語の複文を構文の複合体としてとらえ、その談話環境及び展開の諸相を機能論的角度から論じた。ナラを始めとする条件構文の体系的見直し、動詞の接続辞表現、トアッテとニアッテ、ダケニとダケアッテの意義づけを行うほか、ナカ時間節の事態誘導的機能に深く関与する点、形態的機能的に多岐にわたる比較・並列・対比表現の考察などを加える。『日本語複文表現の研究』、『複合辞からみた日本語文法の研究』に続く複文研究の集大成。



第178巻 日本語における短縮外来語の形成とその仕組み

文昶允著 A5判・164頁・978-4-8234-1061-1 定価 5,000円＋税 発行 2021.2

本書は、複合外来語を元にする短縮語形成(例えば「デジタル・カメラ」が「デジカメ」となる現象)の仕組みについて扱うものである。先行研究では、専ら理論的な分析がなされている一方で、その説明に実証的な裏付けは与えられていない。本書では、データベースの分析及び実験により、短縮語形成を制御する要因を明らかにする。具体的には、音韻的要因(音節構造や同音連続)に加え、言語使用者の選好傾向が影響していることを主張する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第179巻 壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究

位置変化と状態変化の類型交替

川野靖子著 A5判・296頁・978-4-8234-1062-8 定価 5,800円＋税 発行 2021.2

「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」のような格体制の交替現象は、壁塗り代換と呼ばれ広く知られているが、この現象はどのような仕組みで起こるのか。本書では、壁塗り代換とその関連現象を体系的に記述し、「意味類型の階層モデル」を用いて成立原理の統一的な説明を試みる。英語の locative alternation 研究との比較、ヴォイスや多義語との原理的な相違にも議論が及ぶ。一冊まるごと現代日本語の壁塗り代換を論じた、初の研究書。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第180巻 環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究

山岡華菜子著 A5判・258頁・978-4-8234-1063-5 定価 6,800円＋税 発行 2021.2

京阪式アクセントはアクセント研究の中心をなしてきた分野であるが、その中心の京都から諸地域に範囲を広げると、あまり注目されてこなかった地域や興味深いアクセント変化が観察される。本書では、淡路、明石、鳴門、岸和田、和歌山県橋本、高知などの環大阪湾地域のアクセントやアクセント変化の傾向を、筆者の調査の結果を基に、アクセント史もふまえて明らかにする。また、その特徴を京阪式アクセントの史的変遷の上に位置づける。〈日本学術振興会助成刊行物〉〈第53回早稲田大学国文学会(窪田空穂)賞〉



第181巻 述語と名詞句の相互関係から見た日本語連体修飾構造

三好伸芳著 A5判・284頁・978-4-8234-1064-2 定価 7,000円＋税 発行 2021.3

従来、連体修飾要素の機能は被修飾名詞句の指示性によって決定されるとされ、「定／不定」といった区別が素朴に連体修飾構造の分析に適用されることが多かった。しかし、実際には、そのような一般化に当てはまらない例が体系的に存在する。本書では、日本語の連体修飾構造に見られるさまざまな文法的振る舞いの包括的分析を通じ、連体修飾要素の機能、述語の内包性、名詞句の指示性といった意味論的な概念について、新たな理論的枠組みの提示を試みる。



第182巻 感動詞研究の展開

友定賢治編 A5判・352頁・978-4-8234-1065-9 定価 6,800円＋税 発行 2022.3💡

『感動詞の言語学』(ひつじ書房 2015)に次ぐ2冊目の感動詞論文集。感動詞化のメカニズムの対照研究、「おっと」「えーと」など「と」系感動詞の意味・用法、役割語における感動詞、日本語学習者の応答表現、など感動詞研究の広がりや深化を示す論文で構成されている。感動詞の魅力と研究の可能性が感じられる一冊。執筆者：井上優、金田純平、金水敏、小林隆、定延利之、冨樫純一、友定賢治、中西太郎、林青樺、仁科陽江、野田尚史、森山卓郎、楊虹、羅希、劉伝霞、有元光彦



第183巻 コピュラとコピュラ文の日韓対照研究

金智賢著 A5判・240頁・978-4-8234-1066-6 定価7,300円＋税 発行2021.7

本書は、現代日本語と韓国語の多様なコピュラ文の対照分析を通じ、両言語のコピュラ構造並びにコピュラ形式「だ」「ita」の特徴を明らかにしようとするものである。基本型コピュラ文の意味論的分析をはじめ、一項名詞文、ウナギ文、動作性名詞述語文、拡張型コピュラ文、分裂文、さらに、コピュラ及び属格助詞に関わる名詞修飾構造等を対照的に取り上げることで、日韓のコピュラやコピュラ文の根本的かつ総体的な理解に迫る。



第184巻 現代日本語の「ハズダ」の研究

朴天弘著 A5判・296頁・978-4-8234-1083-3 定価6,700円＋税 発行2021.3

現代日本語の「ハズダ」について、様々な用法を細く分類するだけでは、「ハズダ」の本質が見えにくくなる恐れがある。本書では、「話し手が持っているある情報(知識)に対して、それに反する、またはギャップが感じられる状況が起きる場合」という「ハズダ」の使用条件を提示し、「知識確認」という機能が「ハズダ」の意味機能であることを新たに導入することで「ハズダ」の解釈に統一的な答えを見出した。



第185巻 英語の補部の関係節の統語論・意味論と先行詞の問題

渡辺良彦著 A5判・516頁・978-4-8234-1102-1 定価10,000円＋税 発行2022.2

述詞関係節や副詞句を空所とするある種の関係節が、関係節の形をしていながら修飾部とは異なる「補部」という意味機能を果たすのはなぜであろうか？ 本書は、可能な補部の関係節を限定するため関係節化を個体対象のものとして述語対象のそれとの2つに分け、後者が補部の関係節を特徴づけるとする考えを生成文法の枠組みで論じた最初の試みである。本書では、命題関数でなく「命題」として解釈される関係節の存在が新たに提案される。



第186巻 語彙論と文法論をつなぐ 言語研究の拡がりを見据えて

斎藤倫明・修徳健編

A5判・360頁・978-4-8234-1111-3 定価8,000円＋税 発行2022.3

語彙論と文法論が密接に関わることは従来から言われてきたことだが、本論文集は、接辞や語はもちろん、連語や句といった語と文をつなぐ単位や、文章を構成する諸単位における語彙と文法との関連性(第1部)、文化や対照研究の面(第2部)といったこれまであまり重点的に論じられなかった点から語彙論と文法論とのつながりを探ったものである。執筆者：庵功雄、石井正彦、甲田直美、斎藤倫明、佐藤佑、修徳健、曾睿、東条佳奈、ナロック・ハイコ、林雅子、早津恵美子、宮地朝子、森山卓郎、呂妍



第187巻 アラビア語チュニス方言の文法研究 否定と非現実モダリティ

熊切拓著 A5判・364頁・978-4-8234-1112-0 定価9,000円＋税 発行2022.2

アラビア語チュニス方言についての本邦初の文法研究書。否定辞 ma と接尾辞 -j で動詞などを挟むのは、アラビア語方言に広く見られる否定文の作り方だが、本研究はチュニス方言の否定文の実証的な分析を通じて、ma と -j の役割をはじめて解明。さらにチュニス方言独自の文法現象についても豊富に扱う。否定と非現実モダリティの関係、現実性の観点からの否定の種類、談話モダリティとしての否定など、他言語の研究にも応用可能な理論的考察も豊富。

〈日本学術振興会助成刊行物〉




第188巻 条件文の日中対照計量的研究

KH Coder と SPSS を利用した可視化分析

李光赫・趙海城著 A5判・202頁・978-4-8234-1113-7 定価6,800円＋税 発行2022.8

日中対照研究者必携！ 中日対訳コーパスを利用し、条件文の日中対応状況を可視化する方法を説明した最初の研究書。初心者でも理解できる中日対訳コーパスの構築と研究の方法を紹介。日中対照研究を量的に比較・可視化する新たな研究方法を提示。海外版の Windows でも使え、数学が苦手な文系の研究者でも統計処理が可能。三種類以上の言語と日本語の対照研究にも応用可で、海外の日本語学習者でも日本語教育者でも使える。



第190巻 **書き言葉と話し言葉の格助詞** コーパスと辞書記述の観点から
丸山直子著 A5判・384頁・978-4-8234-1142-7 定価 6,800円＋税 発行 2022.6 

現代日本語の格助詞について、複合格助詞も含めて、個々の助詞の性質や、助詞同士の関連について論じる。国語辞書における格助詞・格情報の記述法を検討し、コーパスをもとに、書き言葉・話し言葉の格助詞がどのように用いられているかの実態把握を行った。格の複数性(多重性・多側面性・連続性)と段階性(述語との結びつきの強さ)についても論じる。無助詞の現象やうなぎ文・こんにやく文についても触れている。

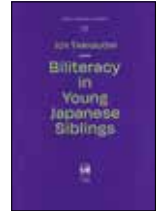


Hituzi Linguistics in English

No.32 **Biliteracy in Young Japanese Siblings**

谷口ジョイ著 菊判・208頁・978-4-8234-1068-0 定価 9,800円＋税 発行 2021.2

本書は、海外生活により複言語環境にあった日本語を母語とする子どもの第二言語能力が、帰国後どのように変化するかを、長期にわたり質的に記述したものである。帰国児童が海外で身につけた英語の能力を、リテラシーという観点から捉え、兄弟姉妹とその家族を継続的に調査、観察することで、保護者の意識、子どもたちの日常的なリテラシー活動、人的ネットワークなど子どもたちを取り巻く社会的要因について明らかにする。〈日本学術振興会助成刊行物〉



No.33 **The Pragmatics of Clausal Conjunction**

長辻幸著 菊判・178頁・978-4-8234-1069-7 定価 9,800円＋税 発行 2021.2

本書では、日英対照の視点から、節連言構造の解釈メカニズムの解明とそのモデル化により、当該現象の全体像における核心部を明らかにする。節レベルの要素を等位的な接続表現でつなぐ節連言構造として、英語の and 連言文とそれに対応する日本語の複数の構造を認知語用論の枠組みに基づいて分析する。そのうえで、節連言構造の解釈に貢献する根本的な特性を抽出し、当該現象を統一かつ包括的に説明できる新たなアプローチを示す。〈日本学術振興会助成刊行物〉



No.34 **A Cognitive Linguistic Approach to Japanese Agrammatism**


井原浩子著 菊判・154頁・978-4-8234-1070-3 定価 9,200円＋税 発行 2021.3

本書は日本語の失文法に見られる助詞「が」、「を」、「に」、「から」の誤用について、主に授受動詞や受動文を用いた産出実験結果に基づき、認知言語学の視点から説明を試みる。また、それらと類似した幾つかの現象(子供の言語獲得過程で見られる助詞の誤用、口語体における助詞の省略、健常者の言い誤りに見られる助詞の誤用)を取り上げ、失文法の場合と比較することから見いだせる共通性と相違が何に起因するかを考察する。



No.35 **English Prepositions in Usage Contexts**

A Proposal for a Construction-Based Semantics

堀内ふみ野著 菊判・224頁・978-4-8234-1110-6 定価 9,400円＋税 発行 2022.2 

語の意味とは何か。構文的なパターンは言語使用の中からどのように形成されるのか。これらの問いに迫るため、本書では、英語前置詞の振る舞いを大規模コーパスや親子会話のデータを用いて分析し、前置詞を含む構文的なパターンが使用文脈の中で創発・定着するプロセスを、認知、談話、相互行為の観点から解明する。分析の帰結として、意味を担う基本単位は単一の語より大きな構文的単位であるという「構文の意味論」を提唱する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



21 言えそうなのに言わないのはなぜか 構文の制約と創造性

アデル・E・ゴールドバーグ著 木原恵美子・巽智子・濱野寛子訳

A5判・288頁・978-4-8234-1079-6 定価 3,800円＋税 発行 2021.9

絶えず変化するコンテキストの中で私たちは構文を創造的に使用する。しかしその一方で「言えそうなのに言わない」表現が存在する。たとえば explain me this は言えそうなのに英語母語話者は言わない。創造的でありながら制約が多い言語を子どもや大人はどのように学習するのか。本書はさまざまな構文の実例や実験研究をわかりやすく解説しながら、この問いを探ってゆく。構文文法を初めて学ぶ読者にも薦められる一冊。原著：Adele E. Goldberg (著) *Explain Me This: Creativity, Competition, and the Partial Productivity of Constructions*. 〈読売新聞書評掲載〉



シリーズ言語学と言語教育

40 日本語教育の新しい地図 専門知識を書き換える

青木直子、バーゲルスキー・マシュー編

A5判・340頁・978-4-8234-1022-2 定価 5,000円＋税 発行 2021.3

国境を越えた移動の急増とインターネットとモバイル技術の普及により、日本語学習のあり方が大きく変化した。学習者の役に立つには、日本語教師にはどのような専門知識が必要か。本書では言語と学習についての従来の常識を問い直し、グローバルな視点から新たに教師教育を考え直す。執筆者：青木直子、バーゲルスキー・マシュー、リー・ウェイ (翻訳：井上エイミー)、百濟正和、義永美央子、西口光一、マーリー・ギャロルド、宇塚万里子、難波康治、ケリー・カーティス (翻訳：富田キアナ)、宮原万寿子、八木真奈美、入江恵、中山亜紀子、柴原千佳、クラムシュ・クレア、川嶋恵子、中井好男、脇坂真彩子、欧麗賢、濱川祐紀代、瀬尾悠希子、末吉朋美



42 外国語としての日本語の実証的言語習得研究

玉岡賀津雄編 A5判・208頁・978-4-8234-1058-1 定価 5,000円＋税 発行 2021.3

これまで日本語や外国語の習得研究は、事例を使った「直感」的な研究が多かった。しかし、特定の表現だけで現象を説明しようとする、視点が偏りがちになる。そこで本書では、「直感」で推論された仮説を、コーパス、テスト、実験などで集めたデータを統計的に解析して「実証」というアプローチの研究を、詳細な解説を含んで8つ掲載した。執筆者：王蕾、斉藤信浩、張婧祎、初相娟、早川杏子、母育新、毛文偉、大和祐子



43 日本語学習者による多義語コロケーションの習得

大神智春著 A5判・280頁・978-4-8234-1067-3 定価 6,800円＋税 発行 2021.2

本書は、学習者が多義動詞「とる」を中心語とするコロケーションの習得過程において、どのような中間言語を形成しているか解明することを目的とした。研究に当たっては、学習者の中間言語を典型化、一般化、差異化の観点から複合的に捉えることを試みた。また、研究結果を日本語教育のコロケーション教材開発に活かすことを目指し、教材作成過程における留意点や練習問題の在り方等を提言した。〈日本学術振興会助成刊行物〉



44 移住労働者の日本語習得は進むのか

茨城県大洗町のインドネシア人コミュニティにおける調査から

吹原豊著 A5判・212頁・978-4-8234-1096-3 定価 4,800円＋税 発行 2021.6

日本語学習リソースへのアクセスが制限されている移住労働者の日本語習得過程はどのようなものか。本書は10年余におよぶフィールドワークと100名を超えるOPIによるデータをもとに、第二言語環境における移住労働者の日本語習得の過程を、日本の地域社会に存在する複数のコミュニティへ参加していく中での状況的学習としてとらえ、分析を行った研究の成果である。第二言語習得研究者はもとより広く在日外国人問題に関心のある読者に是非ご一読いただきたい。



コーパスによる日本語史研究 中古・中世編

青木博史・岡崎友子・小木曾智信編

A5判・340頁・978-4-8234-1133-5 定価4,000円＋税 発行2022.10 

日本語史研究は、資料の読解とそこから取り出した言語形式の集計と分析を重ねる方法によって、発展してきた。本書は中古語・中世語を対象とし、コーパスの構築や活用を通して実践した成果を集成するものである。中古・中世は従来から歴史的研究の中心であったと言えるが、コーパスを用いた方法論を取り入れることによって、新たな領域を切り拓く。執筆者：岡崎友子、近藤泰弘、吉田永弘、大木一夫、青木博史、北崎勇帆、池上尚、渡辺由貴、片山久留美、小木曾智信、松崎安子、鴻野知曉、市村太郎

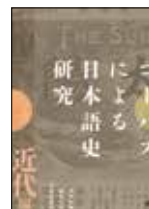


コーパスによる日本語史研究 近代編

田中牧郎・橋本行洋・小木曾智信編

A5判・388頁・978-4-8234-1097-0 定価4,000円＋税 発行2021.11

日本語史研究は、資料の読解とそこから取り出した言語形式の集計と分析を重ねる方法によって、発展してきた。近年整備が進む歴史コーパスは、この方法を質的に深化させ量的に拡大することで、新たな地平を開きつつある。近代に焦点をあて、〈展望〉2編、〈論文〉11編、『日本語歴史コーパス』の〈解説〉4編を掲載し、読者を新地平に誘う。執筆者：田中牧郎、橋本行洋、矢島正浩、宮内佐夜香、小島聡子、近藤明日子、高橋雄太、間淵洋子、横山詔一、竹村明日香、岡島昭浩、新野直哉、小木曾智信、服部紀子



シリーズ刊行予定

コーパスによる日本語史研究 近世編 岡部嘉幸・橋本行洋・小木曾智信編

シリーズドイツ語が拓く地平 [全3巻] 完結！

3 ノモスとしての言語

大宮勘一郎・田中慎編

A5判・344頁・978-4-8234-1106-9 定価4,400円＋税 発行2022.5 

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第3巻。第1部「近代ドイツにおける『国語』」では、言語の規範(ノモス)の形成と変容の社会的、物質的条件についてドイツ語を例に歴史的観点から考察する。第2部「現代におけるノモスの揺らぎ」では、現代の言語規範のありかたについて地理的、社会的、文体的な観点から検討する。執筆者：井出万秀、遠藤浩介、大宮勘一郎、小川敦、川島隆、清野智昭、杉田優子、高田博行、高橋秀彰、武田利勝、田中慎、宮田眞治

シリーズ既刊

1 断絶のコミュニケーション 高田博行・山下仁編

A5判・272頁・978-4-89476-961-8 定価3,800円＋税 発行2019.3

ナチズムや移民の言語を分析し、現代社会でそもそもコミュニケーションは可能かという問題に切り込む。執筆者：大宮勘一郎、川島隆、佐藤卓己、高田博行、田中克彦、田中翔太、田中慎、田野大輔、野呂香代子、初見基、山下仁

2 ドイツ語と向き合う 井出万秀・川島隆編


A5判・276頁・978-4-89476-998-4 定価4,000円＋税 発行2020.8

複数の言語の間で、あるいは言語の転換点で、人々は、ことばとどう向き合ってきたか。執筆者：井出万秀、川島隆、黒田亨、佐藤恵、真田治子、大喜祐太、高田博行、多和田葉子、中直一、浜崎桂子、美留町義雄、村瀬天出夫



3 場と言語・コミュニケーション

岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子編

A5判・288頁・978-4-89476-793-5 定価 3,600円+税 発行 2022.1 

『場とことばの諸相』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第3巻。近代哲学・科学のパラダイムを乗り越え、場の理論に基づく「主客非分離」「場における相互作用」のパラダイム転換を打ち出した渾身の一冊。人称詞、指示詞、絵本の日英対照、複合動詞、身体論など、豊富な事例研究を展開し、新たな言語研究の地平を切り開く。執筆者：大塚正之、井出祥子、岡智之、植野貴志子、新村朋美、成岡恵子、小森由里、小柳昇、河野秀樹

シリーズ既刊

1 コミュニケーションのダイナミズム 自然発話データから

藤井洋子・高梨博子編 A5判・272頁・978-4-89476-791-1 定価 2,600円+税 発行 2016.3

コミュニケーションがもつダイナミックに共創する人と人とのつながりや喜び、想像を超えた展開への可能性の大きさを実証研究の基に示す。執筆者：熊谷智子、菅原和孝、鈴木亮子、高梨博子、成岡恵子、藤井洋子

2 場とことばの諸相

井出祥子・藤井洋子編 A5判・308頁・978-4-89476-792-8 定価 3,600円+税 発行 2020.11

「場の理論」をことばの研究に応用し、非西欧社会におけるコミュニケーションの理解に資する世界的視野からの新しい理論を提唱する。執筆者：井出祥子、山口征孝、藤井洋子、井出里咲子、多々良直弘、難波彩子、堀江薫、古田朋子、片岡邦好、スコット・サフト



外界と対峙する


牧野遼作・砂川千穂・徳永弘子編

A5判・256頁・978-4-8234-1127-4 定価 3,200円+税 発行 2022.6 

LC (Language and Communication) 研究会による研究成果をまとめたシリーズ。“外界”とは単に屋外のことを指すわけではない。本巻では“外界”をコミュニケーションに参加していない人々やモノと捉え、文化人類学、ロボット工学、会話分析、語用論などの幅広い分野からのアプローチによる研究を収録。執筆者：川口一画、黒嶋智美、清水大地、須永将史、砂川千穂、徳永弘子、名塩征史、蓮見絵里、平本毅、牧野遼作

シリーズ予定

自己と対峙する 吉川正人・佐治伸郎・土屋智行編  p.27

他者と対峙する 有本泰子・坂井田瑠衣・岡田将吾編  p.27



3 接辞から見た英語 語彙力向上をめざして

西川盛雄著 四六判・172頁・978-4-89476-932-8 定価 1,600円+税 発行 2021.12

英語を学ぶに際し、語の仕組みについて知るとはとても重要。語の仕組みや意味や語源を知るとはこれを使う技能のレベルアップにつながる。語形成の重要な要素は接辞。接辞が分かれば英語が身近で面白く、魅力的に見えてくる。本書は英語の接辞付与による語形成について分かりやすく具体的に説明した。本書を読めばさまざまな発見があるはず。本書によって英語の語形成の面白さが分かり、語彙が増え、英語力が高まることが期待できる。



4 カタカナ語からはじめる英語の発音

中西のりこ著 四六判・168頁・978-4-89476-991-5 定価1,600円+税 発行2022.2💡

日本語母語話者が英語発音を学ぶ際、カタカナ外来語の発音との混同が起こりやすい。しかし日本語発音と英語発音のしくみの違いを体系的に理解できれば、発音を学ぶことは難しくない。本書では、日常語として馴染みのあるカタカナ語を例に、敬遠されがちな発音記号を分かりやすく説明する。さらに音声変化やプロソディのしくみについても解説し、発音練習におすすめの学習法を紹介する。身近にあるカタカナ語の知識を活かして、発音の苦手意識を克服してほしい。

★音源はネットで提供。



5 英語談話標識の姿

廣瀬浩三・松尾文子・西川眞由美著

四六判・208頁・978-4-8234-1153-3 定価1,600円+税 発行2022.11💡

コミュニケーションは、話し手の発話意図を巧みに伝え、聞き手が誤解することなく理解できれば成功したと言える。その成功の鍵を握るのが談話標識である。本書では、英語談話標識について、個々の用法を詳細に述べると同時に、英語談話標識の全体像を明らかにしている。談話標識の理解を深めることで、ネイティブスピーカーの「心」が見える。



ひつじ研究叢書(文学編)

13 文学と戦争 言説分析から考える昭和一〇年代の文学場

松本和也著 A5判・592頁・978-4-8234-1103-8 定価7,000円+税 発行2021.11

本書は、アジア・太平洋戦争期と重なる昭和10年代文学(史)に関する研究プロジェクトとして、多彩な文学活動を歴史的なアプローチによって多角的に検証した成果の集大成である。昭和10年代を通じて多くの文学者が関わった論争的なテーマの数々、話題となった文学作品の特徴や同時代受容、戦時下における文学者の生き方などをとりあげ、問題構成に応じてアレンジしたメディア調査、言説分析、テキスト読解をクロスさせた考察を集積した。装画 会田誠



14 横光利一と台湾 東アジアにおける新感覚派(モダニズム)の誕生

謝恵貞著 A5判・424頁・978-4-8234-1109-0 定価6,200円+税 発行2021.12

日本統治期台湾の文学において、横光利一の「純粋小説論」や作品が与えた影響は大きく、また、その影響は中国や韓国など東アジアに広がる。本書は、日本統治期において台湾人作家がいかに横光を受容したかを解明し、台湾文学史の中にこれまで看過されてきた「台湾新感覚派」の誕生を文学史に正しく位置づける。更に、韓国の李箱や中国に渡った劉呐鷗の横光受容や、新発見された横光の隨筆「台湾の記憶」を通して台湾の表象を論じる。



15 村上春樹〈物語〉の行方 サバルタン・イグザイル・トラウマ

山根由美恵著 A5判・426頁・978-4-8234-1123-6 定価6,800円+税 発行2022.5💡

本書は、村上春樹が日本を離れ「イグザイル」(故郷離脱)を開始した時期から最新作までの村上文学の全体像および、変遷を捉えることを目的としている。現在村上には「世界文学」作家と評されることも多いが、自らを故郷離脱者と捉え模索した時期がある。この「イグザイル」意識からテキストを逆照射し、村上文学の新たな側面を提示した。また、本書では村上文学における「サバルタン」(下層・従属的・副次的存在)に着目し、村上文学の持つ批評性(とその限界)を捉えていることも特徴である。



未発選書

28 マンガ学からの言語研究 「視点」をめぐる

出原健一著 四六判・260頁・2刷・978-4-8234-1048-2 定価3,500円+税 発行2021.3

認知言語学とマンガ学。一見、関連性がないように見えるが、実はどちらも「視点」がキーワードとなっている。認知言語学では主観的な視点と客観的な視点が主に議論されるが、マンガにはさらに多様な「視点」が存在する。本書ではマンガ学の視点概念を用いて、日本語のルビと英語の自由間接話法を中心に分析し、言語研究全般に援用できるような新たな視点理論の提案を試みる。



29 トランス・モダン・リテラチャー

「移動」と「自己」をめぐる芥川賞作家の現代小説分析

疋田雅昭著 四六判・582頁・978-4-8234-1094-9 定価5,800円＋税 発行2021.5

「自己」が近代文学が拘り続けたテーマであることは言を俟たないが、現代文学は統一され安定した「自己」そのものへの不信から始まっている。ともに時空を「移動」し続ける存在としての読者とテキストが出会う結節点。そこから変容しながらも繰り返し立ち上がってくる主体こそが現代文学が語る「自己」にほかならない。本書は「自己」と「移動」に着目し芥川賞受賞作家のテキストから平成という時代の諸相を読み込む試みである。



30 「大東亜」の読書編成 思想戦と日本語書物の流通

和田敦彦著 四六判・360頁・978-4-8234-1129-8 定価2,900円＋税 発行2022.2

本書は、戦時期に日本の言語や文化の価値を教え、紹介し、広げていった人々の活動やその仕組みに焦点をあてる。知や情報を広げ、読者に働きかけていく仕組みを、国内の文化統制と、外地や占領地に向けた文化工作とに通底する技術として明らかにする。そのために、書物の読者への広がりをとらえる新たな研究方法を用いた。思想戦の政策から実践への展開が、占領地や移民地に遺る日本語蔵書の詳細なデータから初めて明らかにされる。



21世紀日本文学ガイドブック

3 平家物語

高木信編 A5変形判・978-4-89476-510-8 定価2,200円＋税 発行2022.11

『平家物語』を理論的に読むとはどういうことなのか。従来の作者論、成立論、成立圏、諸本論の整理からの入門書とはちがう角度から、『平家物語』に迫ってみよう。「ジェンダー」「怨霊と鎮魂」「権力」「武士と死」「権力」などの物語を構築する諸モチーフから、『平家物語』の世界に分け入っていきたい。と同時に、ゼミでの発表の仕方、卒論の発想の仕方・書き方など、物語へのアプローチの基本的な方法も提示してみる。

NOW
PRINTING

一語から始める小さな日本語学

金澤裕之・山内博之編

A5判・272頁・978-4-8234-1148-9 定価2,600円＋税 発行2022.8

「わーい」はいかにも話し言葉だが、実際に「わーい」と発話することはほとんどない。それはなぜなのか……。本書には、このような問題意識から出発し、一語にこだわった分析を行う17本の論文が収録されている。ネタ・素材に触れた時の発想・着想がとても重要で、一方、論証は最小限でよい。これが、本書の提案する「小さな日本語学」である。執筆者：岩田一成、奥野由紀子、加藤恵梨、金澤裕之、小口悠紀子、小西円、嶋ちはる、建石始、田中祐輔、中石ゆうこ、中俣尚己、橋本直幸、本多由美子、茂木俊伸、森篤嗣、柳田直美、山内博之



語りと主観性 物語における話法と構造を考える


阿部宏編 A5判・400頁・978-4-8234-1105-2 定価7,800円＋税 発行2022.2

本書は、日本語や英語・フランス語・ドイツ語における語り的问题、特に自由間接話法をはじめとする主観性関連の諸現象への複合的なアプローチの試みである。15篇の論文それぞれの関心は相互に重なり合うが、第1章では言語学的问题、第2章では文学論・物語論、第3章では言語以外の表現形態との接点について主として考察している。執筆者：赤羽研三、阿部宏、石田雄樹、出原健一、川島浩一郎、小林亜希、嶋崎啓、鈴木康志、田原いずみ、平塚徹、深井陽介、牧彩花、松澤和宏、三瓶裕文、吉川一義〈日本学術振興会助成刊行物〉



〈限界〉志向のロシア語と〈安定〉志向の日本語

アスペクト表現のロシア語・日本語対照研究

金子百合子著 A5判・400頁・978-4-8234-1117-5 定価 7,800 円＋税 発行 2022. 2 

アスペクトは動作のどの部分を言語上で切り取るかを問うカテゴリーだが、それも言語的世界像の一部をなす。動作の展開において〈限界〉志向のロシア語と〈安定〉志向の日本語では、同じ意味でも「重み」や「振る舞い」が異なる。アスペクト的志向の違いはさらにテンスやモダリティ、語形成や構文における表現上の差異となって現れる。アスペクト意味の理論と実践の実態を多様な言表事実を基に検証する本邦初の本格的な露日対照言語研究。

〈日本学術振興会助成刊行物〉



早稲田大学日本語学会設立 60 周年記念論文集 第 1 冊

言葉のしくみ

早稲田大学日本語学会編

A5判・384頁・978-4-8234-1118-2 定価 7,000 円＋税 発行 2021. 12

早稲田大学日本語学会設立 60 周年を記念して「早稲田日本語学」の広がりと深まりを示す論文集。第 1 冊「言葉のしくみ」には、音韻、文字表記、語彙の分野を中心に 21 論文を収載。「『日粵会話』とその音注表記」「音声の定量的研究法をかんがえる」「行草書体と楷書体」「日本語表記の「日常」「歴史コーパスに対する話者情報付与の試み」等。執筆者：池上尚、市村太郎、上野和昭、遠藤織枝、加藤大鶴、木村義之、小宮千鶴子、今野真二、坂本清恵、笹原宏之、佐藤栄作、澤崎文、すぎもとつとむ、鈴木豊、高松正毅、田中優子、中川秀太、馬之溝、増地ひとみ、山岡華菜子、吉田健二



早稲田大学日本語学会設立 60 周年記念論文集 第 2 冊

言葉のはたらき


早稲田大学日本語学会編

A5判・432頁・978-4-8234-1119-9 定価 8,000 円＋税 発行 2021. 12

早稲田大学日本語学会設立 60 周年を記念した論文集の第 2 冊「言葉のはたらき」には、文法（歴史的研究・現代）、文章・文体・談話、待遇表現、言語教育・言語施策に関する 23 論文を収載。「文末思考動詞と推量の助動詞」「主題のない文の現れ方」「文章・談話における「段」の展開的構造」「明治期東京語における〈行く・来る〉の謙譲語の使用」等。執筆者：石黒圭、石出靖雄、岡田祥平、加藤薫、蒲谷宏、荻宿紀子、河内彩香、木村寛子、坂本恵、佐久間まゆみ、澤田淳、高野敦志、寺田智美、永岡悦子、仁科明、松木正恵、三原裕子、宮崎里司、森野崇、森山卓郎、山口佳也、山田里奈、渡辺由貴



ソシュールのアナグラム予想 その「正しさ」が立証されるまで

山中桂一著 A5判・152頁・978-4-8234-1092-5 定価 2,600 円＋税 発行 2022. 4 

古典語の詩には、表現に並行して神格や作者名、テーマなどの音像を形成するような未知の詩法が存在したのではないか——この直感はソシュールを夢中にさせたが、結局その確証を得るに至らず、また後世の研究者たちも目ぼしい成果を挙げられなかった。しかし最近ようやくアナグラムの存在とその仕組みに関する有望な学説が登場した。本書ではそこに至る紆余曲折を略述し、最終解と思しいこの新説を紹介する。



Linguistic Atlas of Asia

遠藤光暁・峰岸真琴・白井聡子・鈴木博之・倉部慶太編

B5判・376頁・978-4-8234-1074-1 定価 28,000 円＋税 発行 2021. 9 在庫僅少

アジア全域の全語族につき 2000 地点ほどの密度で「太陽・稲・乳・風・鉄・計数法（類別詞）・声調とアクセント・雨が降る」の 8 項目に対して言語地図を描画し、それぞれの語形の形成過程に関する解釈を集成した。24 名からなる各語族の専門家によるコラボレーションの成果である。項目ごとにアジア全域における概観が与えられ、マクロ・ミクロな地理分布をパノラマのように一望することができる。★ A1 判付録地図付き。〈日本学術振興会助成刊行物〉



自由研究 ようこそ！ことばの実験室(コトラボ)へ

松浦年男著 A5判・152頁・978-4-8234-1108-3 定価1,400円＋税 発行2021.8

ことばの仕組みや特徴の調べ方を小学生に向けて解説。自由研究のガイドとしても、調べ学習の参考資料としても使える。内容は、3つのワーク——①考える(「隠れた「つ」を探せ!」・「は」と「が」はどう並んでる?」、②作る(「漢字だけ文を書いてみよう」)、③調べる(「世界のことばで「日本」は何と呼ぶのか?」・「手話のことを調べよう」)で、ことばの楽しみ方がいろいろな角度から分かるよう工夫されている。

ゼロ

0から学べる島むに読本 琉球沖永良部島のことば

横山晶子著 B5判・160頁・978-4-8234-1158-8 定価2,800円＋税 発行2022.7

国内の危機言語である、奄美群島沖永良部島の言葉(しまむに)を、体系的に学べる読本である。文法記述研究を元に、音の体系、単語の作り方、文の作り方で幅広くカバーし、実際の会話で使う文例や、はじめに学ぶべき100語も付録されている。豊富なイラストと平易な文章で、小学校高学年から大人まで、楽しみながら学ぶことができる。他地域の方言教本を作る上でも参考になる一冊である。

アジア・太平洋における日本語の過去と現在

今村圭介、ダニエル・ロング編

A5判・448頁・978-4-8234-1098-7 定価7,200円＋税 発行2021.10

本書は、戦前日本の帝国主義による領土拡大の影響からアジア・太平洋に広がった日本語の過去と現在を記述するものである。長年各地で調査研究を進めてきた著者陣による3部構成の論考であり、「残存した日本語」「接触言語」「日本語からの借用」の3つの側面を記述している。近年研究が進んだ同分野の研究の全体像を明らかにする1冊である。執筆者：今村圭介、ダニエル・ロング、朝日祥之、甲斐ますみ、黄永熙、甲賀真広、合津美穂、真田信治、高木丈也、張守祥、白曉萌、李舜炯(日本学術振興会助成刊行物)

ポエティクスの新展開 ブルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて

片岡邦好・武黒麻紀子・榎本剛士編

A5判・312頁・978-4-8234-1144-1 定価4,800円＋税 発行2022.11

多様な記号の反復・対照性・平行性によってもたらされる等価性、すなわち「詩」の原理は、様々なコミュニティ内で指向される「行為の型」を司る原理でもある。伝統儀礼、芸能から、教育、福祉、実業、観光、社会運動まで、我々が実際に身を置く社会に存在する実践を「生活の詩」と捉え直し、社会的行為の根底にある詩的機能の作用を解き明かす。執筆者：浅井優一、井出里咲子、榎本剛士、梶丸岳、片岡邦好、高梨博子、武黒麻紀子、古川敏明、山口征孝

言語進化学の未来を共創する

岡ノ谷一夫・藤田耕司編

A5判・326頁・978-4-8234-1161-8 定価4,200円＋税 発行2022.10

階層性と意図共有を言語進化の2つの柱として、言語学および脳科学・生物学など各関連分野から未来の言語進化学への提言を行う。本書は、文科省新学術領域研究『共創言語進化』を進める中で組織された「若手の会」メンバーにより企画され、若手による意欲的な論考12編と、領域計画班代表5名によるコメント論文、そして自由闊達な座談会からなる。2022年9月に金沢で開催の国際学会『言語進化学合同会議』(JCoLE)開催記念出版。

手話が「発音」できなくなる時 言語機能障害からみる話者と社会

石原和・菊澤律子編

A5判・144頁・978-4-8234-1156-4 定価1,700円＋税 発行2022.9

「手話は言語である」といわれるようになって久しい。では、手話が「話せなく」となると、どうなるのか? 本書では、交通事故で手話が部分的に「発音」できなくなった例をとりあげ、話者の立場、言語学からみた解釈、そして法律上の解釈を紹介する。アメリカでの類似の事例もとりあげつつ、手話が言語であるとは?と社会との関係を考える。執筆者：石原和、市田泰弘、菊澤律子、那須川訓也、原大介、スーザン・フィッシャー、藤原百合、藪之内寛



知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング

内田諭・大賀哲・中藤哲也編

A5判・268頁・978-4-8234-1000-0 定価 3,600円＋税 発行 2021.7

本書は異分野融合研究を実践するための方法論としてテキストマイニング(TM)に着目し、その基本的な仕組みや実際の研究事例を示したものである。基礎編ではTMの理論や手法等を紹介し、実践編では言語学、情報学、政治学、社会学、看護学、環境学など多様な分野の新進気鋭の研究者が、それぞれの分野におけるTMの実践的な研究例を提示する。執筆者：石田栄美、伊豆倉理江子、内田諭、大賀哲、加藤朋江、金岡麻希、川端亮、木下由美子、清野聡子、田中省作、土屋智行、中藤哲也、永崎研宣、秦正樹、畑島英史



国語問題と日本語文法研究史

仁田義雄著 四六判・244頁・978-4-8234-1114-4 定価 2,800円＋税 発行 2021.12

言語的不平等に対する理想と現実の乖離を指摘。裁判での使用言語などを通し、国家の国語に対するあり方に触れ、近代日本の国語創出における上田万年の果たした役割を解明。国語問題への小林英夫の革新的な考えを明示。テニヲハ・係り結び・語分類への考察の進展、及び明治以降の文法研究の進展を描きながら、日本語文法研究史を概説、明治期の群小文法書の取り出しが本書の特徴。さらに現代日本語文法の記述的研究の確立化を示す。



【研究プロジェクト】時間と言語 文法研究の新たな可能性を求めて

益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編

A5判・352頁・978-4-89476-992-2 定価 6,200円＋税 発行 2021.2

日本語文法研究の新たな展開を目指す共同研究プロジェクトの成果報告論集。日本語文法研究において最も実績のある研究課題の1つであるアスペクト・テンスについて、現代日本語共通語・文法史・対照研究の3つの観点から多角的にアプローチするとともに、アスペクト・テンス体系と談話・テキストにおける運用のインタラクションを探究する。執筆者：益岡隆志、定延利之、高山善行、井上優、羅米良、羅希、小林ミナ、藤井俊博、西田隆政、石出靖雄、渡邊淳也、和田尚明、金善美



日本語の乱れか変化か これまでの日本語、これからの日本語

金澤裕之・川端元子・森篤嗣編

A5判・272頁・2刷・978-4-8234-1037-6 定価 3,800円＋税 発行 2021.2

ルールからの逸脱という一一般にはネガティブに捉えられることが多い。しかし歴史や文化の実際の流れから見ると、それこそが新しい時代やトレンドを生み出す原動力となっていることも多い。日本語における過去や現在進行中の変化を多様な面から取り上げ、ことばの「乱れ」「正しさ」「変化」といったものを、動的な視点から見つめ直す試みの1冊。執筆者：岡田祥平、尾崎喜光、金澤裕之、川端元子、金愛蘭、野田春美、橋本行洋、松田謙次郎、蓑川恵理子、森篤嗣、山田敏弘、横山詔一



日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第2巻

「した」「している」の世界

庵功雄・田川拓海編

A5判・332頁・978-4-89476-782-9 定価 4,200円＋税 発行 2021.3

シリーズ第2巻。本巻では、「した」「している」に関する研究を集めた。「した」の形態論、副詞句のタイプとテンス形式、テンス・アスペクト体系とテンス形式、日英語のナラティブとテンス形式、東北方言から見た「した」とムード、英語の「した」、テイルの1つの意味、知識と体験、体感から見た「した」と「している」、無標否定形式「していない」、ムード表現としての「している」、史的研究から見た「している」および「した」、など、テンス・アスペクト・ムードに関わる「した」「している」の特徴を多面的に捉える。執筆者：有田節子、庵功雄、岩本遠億、奥川育子、高田祥司、定延利之、田川拓海、高山善行、福嶋健伸、松田真希子、和田尚明



「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門

中俣尚己著 A5判・208頁・2刷・978-4-8234-1059-8 定価1,800円＋税 発行2021.4

コーパス検索アプリケーション「中納言」の初の解説書。3部構成。第1部「検索してみよう」では「中納言」での検索の仕方や様々な機能について解説する。第2部「分析してみよう」では結果をダウンロードした後、表計算ソフトやテキストエディタを活用し、どのように結果を集計、数値を比較すれば良いかを解説する。第3部「研究してみよう」ではどのようにコーパス研究を行うべきか、また、レポート・論文にまとめる上での注意点を事例をもとに解説する。



ビジネス文書の基礎技術 実例でわかる「伝わる文章」のしくみ

石黒圭・熊野健志編

四六判・208頁・978-4-8234-1085-7 定価1,400円＋税 発行2021.3

ビジネス文書の書き方を見よう見まねで学ぶ時代は、もはや過去のものとなった。本書は、ビジネス文書のコーパスから豊富な具体例を抽出、それを言語学的な観点から丁寧に分析し、優れた文書の特徴を明らかにした新しいタイプの実用書である。就活中の学生や企業に勤めたばかりの新入社員、企業の日本語研修担当者やビジネス日本語教師、いずれにもオススメ。執筆者：青木優子、浅井達哉、井伊菜穂子、石黒圭、井上雄太、岩崎拓也、熊野健志、佐野彩子、鈴木英子、田中啓行、布施悠子、アンドレイ・ベケシュ、蒙韞、柳瀬隆史、横野光 ■ Kindle版も発売中。



「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか

椎名美智著 A5判・304頁・3刷・978-4-8234-1056-7 定価3,600円＋税 発行2021.1

「させていただく現象」の謎を解く。「させていただく」を言われて怒れる人がいる一方で、「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか？ この問いに答えるべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為的観点から他の授受表現との勢力関係変化を探った。それらをゴフマンの枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトに対する洞察を得た。■ Kindle版も発売中。

〈読売新聞／産経新聞書評掲載〉



全国調査による感動詞の方言学

小林隆編 A5判・978-4-8234-1167-0 定価5,000円＋税 発行2022.11💡

驚きの声を挙げることに地域差はあるのだろうか。その疑問に答えるべく、感動詞をテーマにした全国1000地点規模の調査を行った。本書はそのデータを分析することで、感動詞の全国的な地域差を明らかにしようとするものである。狭義の感動詞に留まらず、生理音的な発声や動作のかけ声、行為指示・意思表示の表現、さらには挨拶的な言い回しも対象にする。執筆者：有元光彦、勝又琴那、川崎めぐみ、榎引祐希子、小林隆、坂喜美佳、作田将三郎、椎名渉子、竹田晃子、田附敏尚、津田智史、友定賢治、中西太郎、船木礼子、松田美香



全国調査による言語行動の方言学

小林隆編 A5判・356頁・978-4-8234-1071-0 定価5,000円＋税 発行2021.3

荷物運びを手伝ってもらいたいとしたら、どのような頼み方をするだろうか。おつりが間違っていることを注意するときはどうだろう。本書は、そうした言語行動の地域差を全国1000地点規模の調査によって明らかにする。目的別に分類されたさまざまな言語行動のデータを分析することで、この分野の方言学の基盤づくりをしようというのが本書のねらいである。執筆者：井上文字子、尾崎喜光、榎引祐希子、熊谷智子、小林隆、佐藤亜実、椎名渉子、篠崎晃一、竹田晃子、津田智史、中西太郎、松田美香



方言の研究 8 特集 感動詞の研究

日本方言研究会 A5判・356頁・978-4-8234-1130-4 定価5,000円＋税 発行2022.7💡

投稿論文3本、特集論文8本、また「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」（各2本）を掲載する。特集は、第111回研究会のシンポジウムの発表をふまえ、さらに内容を充実させたものとなっている。執筆者：有元光彦、稲熊詩帆、今村かほる、岩城裕之、工藤真子、後藤典子、小西いずみ、小林隆、澤村美幸、下野雅昭、杉村孝夫、武田拓、田附敏尚、友定賢治、日高貢一郎、船木礼子、松田謙次郎、松田美香



新版 社会言語学図集 日本語・英語・中国語・韓国語解説

真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯編

A5判・296頁・978-4-89476-942-7 定価 2,500円＋税 発行 2021.11

社会言語学の各領域におけるトピックを集成し、それぞれの裏付けとなったデータを図表の形にして掲げ、日本語と英語・中国語・韓国語で簡潔な解説を加えた。近年、大学等での授業科目として「社会言語学」が取り上げられることが多くなった。本図集は、そのための教材として新たに編修したものである。日本語をもとにして、英語、中国語(繁体字)、韓国語による要約も掲げているので、対照しつつ外国語学習としても活用できよう。秋山書店で刊行されていた図集の改訂新版。



改訂版 社会言語学 基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・368頁・2刷・978-4-8234-1143-4 定価 2,200円＋税 発行 2022.3

社会言語学の成り立ちから、最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析の章を設け、言語人類学、批判的談話分析に関しても充実させた。はじめて社会言語学を学ぶ学生だけでなく、これから談話分析を目指す学生にも役立つ内容である。言語と社会、言語と文化、異文化コミュニケーションに興味のある学生の読本としても使える一冊。



An Introduction to Cognitive Grammar Basic Readings in English

吉村公宏著 菊判・978-4-8234-1145-8 定価 1,600円＋税 発行 2022.11

認知文法理論への超入門書。英語で書かれた専門書や論文は数居が高い。でも英語を使って専門知識を得たいもの。本テキストは平易な英語で認知文法に近づく道案内の書である。Exerciseでは英語で考え、英語でoutputする体験型テキスト。独習も可能。英語の運用力をつけながら理論を体感する構成となっている。教養レベル、専門的英語学・言語学における初学者向けの一冊である。



フィールドワークではじめる言語学 なじみのない言語から考える

古閑恭子著 A5判・192頁・978-4-8234-1139-7 定価 2,200円＋税 発行 2022.3

言語学入門書にこそ、なじみのない言語を——！ 言語学テキストのほとんどは、最もなじみのある言語を中心に作られている。しかし、既存の枠組みを取っ払って考えるという言語学の基本を実践するのに、なじみのない言語こそ格好の素材である。日本語や英語とは違ったことばの世界があることを知り、なじみのある言語を見つめ直すことにもつながる。筆者の研究対象であるガーナの言語を主に取り上げ言語のしくみを紐解いていく、一味違った言語学入門書。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著 A5判・288頁・978-4-8234-1093-2 定価 1,700円＋税 発行 2021.3

初版刊行より約10年を経て大幅に改稿。現在の状況を反映させた。第2版刊行。コーパス言語学(corpuslinguistics)は、英語においては1990年代以降、日本語においては2000年代以降、それぞれ急速な進展を見せ、現在、言語や言語教育に関わる幅広い研究分野に大きな影響を及ぼしている。本書は、英語コーパスと日本語コーパスの両者に目配りしつつ、初学者を対象に、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法論について平易に解き明かすことを目指す。



ベーシック語彙意味論

岸本秀樹・于一楽著

A5判・144頁・978-4-8234-1044-4 定価 1,700円＋税 発行 2021.2

語彙には歴然とした体系的性がある。本書は、語彙のこのような体系的側面を特に意味的な観点から解説する。語彙の体系は、語の形態・音韻・意味に及び、日常的な表現を中心に具体例を交えながら、これらの体系に関して基本的な事実とそれを説明する規則や原理を紹介する。本書を読み終えると、語彙の意味がどのように研究されてきたかについておよその方向性をつかむことができ、日常的な語彙の中に潜む日頃気がつかない法則性に迫ることができる。



標準韓国語文法論

南基心・高永根・劉賢敬・崔炯龍著 五十嵐孔一監訳 鷺澤仁志・松浦利恵・千代裕介・崔允智・姜詠里・根津祐希訳

A5判・440頁・978-4-8234-1077-2 定価 8,200円＋税 発行 2021.3

本書は南基心、高永根他著『*표준 국어문법론* (標準韓国語文法論)』(全面改訂版、2019)の全訳である。韓国語の形態論と統辞論を詳細に述べたもので、全面改訂版では最新の言語学、韓国語学研究の成果を加筆した内容となっている。韓国の学校文法に準拠した本書は1985年の初版以来、韓国語文法の研究と教育の両分野で文字通り、標準的な文法書として読み継がれている。韓国語学、朝鮮語学のみならず、日本語学に携わる研究者にも必須の一冊である。



韓国語を教えるための韓国語の発音システム

金鐘徳著 中村麻結訳

A5判・216頁・978-4-8234-1073-4 定価 6,800円＋税 発行 2021.1

本書は、第二言語としての韓国語教育のための発音規則を網羅してその階層を詳らかにした上で、韓国国立国語院標準語規定標準発音法及び標準韓国語大辞典を精査検証し、最適な用例及び例外を提示しつつ、教条的な規範主義ではなく、現実発音を追求する良著である。韓国語を教育する教授者・その教授法を学ぼうとする学生・大学院生・講師志望者必携の書であり、韓国語学習者にとっては発音規則を学ぶための最良の参考書となるだろう。



実験認知言語学の深化

篠原和子・宇野良子編

A5判・280頁・978-4-8234-1005-5 定価 5,400円＋税 発行 2021.5

2008年、国際認知言語学会で「量的転回」が宣言された。以来10年以上を経て、日本では実験的手法への興味が広がりつつあるが、欧米と比べるとまだ発展の余地がある。本書ではこれらの概観、解説、事例研究に加え、Gibbs、Slobinなど実験認知言語学発展の歴史に必読な論文の翻訳を掲載し、実験認知言語学のこれまでとこれからを考える。執筆者：秋田喜美、Raymond W. Gibbs, Jr. (松中義大訳)、楠見孝、Bonnie McLean、松本曜、鍋島弘治朗、大谷直輝、佐治伸郎、Dan Slobin (櫻井千佳子訳)、菅村玄二、平知宏、宇野良子、吉川正人



言語学と科学革命 認知言語学への展開

山梨正明著 四六判・216頁・978-4-8234-1076-5 定価 3,200円＋税 発行 2021.5

本書は、科学哲学の観点から、言語学における新たな言語理論の展開のメカニズムの諸相を明らかにしていく。特に、生成意味論を母体として出現した認知言語学の科学的探求の方法を、科学哲学のパラダイム変換の観点から考察する。また、認知言語学の研究が、言葉の探求だけでなく、修辞学、哲学、認知心理学、脳科学、等の関連分野の研究にどのような重要な知見を提供するかを考察していく。言葉と知のメカニズムの研究への新たな指針となる一冊。



認知言語学論考 No.16

山梨正明編 A5判・330頁・978-4-8234-1131-1 定価 9,800円＋税 発行 2022.8💡

目次：井上拓也 認知言語学を生態学的言語論として語り直す／五十嵐啓太 私的・公的表現の区別から見た絵本の表現技法／夏海燕 「てくる」構文に見られる〈不快感〉について／栗田奈美 本動詞から複合語構成要素、接辞への連続性／Ash L. Spreadbury *X they said Y they said* as a Sarcastic Multi-sentential Construction／中村渉 格の単義的分析とその帰結／濱田英人 日英語の語の意味拡張のメカニズムの違い／濱本秀樹 Instruction of English Counterfactuals Based on Embodied Cognitive Experience／松中完二 多義の原理についての認知意味論的考察



越境者との共存にむけて

村田和代編 A5判・288頁・978-4-8234-1122-9 定価4,200円＋税 発行2022.2💡

日本社会における喫緊の課題である多文化共生をめぐり、ナラティブ分析というマイクロアプローチから、言語教育政策や公共政策への提言といったマクロアプローチまで、分野を超えて多層的に考察する。ポストコロナの日本社会において、何を変えるべきなのか、誰が変わるべきなのか、越境者との共存や多様性をあらためて問い直す。執筆者：岩田一成、大石尚子、岡本能里子、片岡邦好、木村護郎クリストフ、村田和代、山口征孝、吉田悦子、Julian CHAPPLE、Magda BOLZONI、Astha TURADHAR



モビリティとことばをめぐる挑戦 社会言語学の新たな「移動」

三宅和子・新井保裕編
A5判・284頁・978-4-8234-1128-1 定価3,200円＋税 発行2021.12

「移動の時代」といわれる21世紀、グローバル化、デジタル化の中で移動する人とことばの関係は多様性・流動性を深めている。従来の人文社会科学のパラダイムでは捉えきれなくなった、ポストモダンを生きる人々の「モビリティ」とことばの現実を把握するにはどのような視点や方法論が求められるのか。この課題に取り組んできた10人の研究者が集結。執筆者：新井保裕、岩崎典子、生越直樹、フロリアン・クルマス(三宅和子訳)、佐藤美奈子、サウクエン・ファン、古川敏明、三宅和子、山下里香、吉田真悟



質的言語教育研究を考えよう リフレクシブに他者と自己を理解するために

八木真奈美・中山亜紀子・中井好男編
A5判・200頁・978-4-8234-1042-0 定価2,200円＋税 発行2021.10

言語教育の分野でも広がる「質的研究」。興味があるけど、どうやるの？ インタビューをすれば質的研究？ 結果は一般化しないの？ 様々な疑問に、言語教育の実践者である執筆者が、それぞれの研究とその裏側を明かし、新たな概念の提唱を試みた渾身の書。初心者も経験者も質的研究の真髄を知りたいなら、この1冊。執筆者：八木真奈美、中山亜紀子、中井好男、李曉博、脇坂真彩子、欧麗賢、大河内瞳、サマンティカ・ロクガマゲ、嶋本圭子、瀬尾悠希子



レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育

村田和代編 A5判・224頁・978-4-8234-1165-6 定価2,900円＋税 発行2022.10💡

コロナ禍で大きくコミュニケーションの有様が変わった状況で、教育も大きく変わらざるを得なかった。予期せぬ困難は、今後も起こりうることを誰しもが感じているが、本書では、教育、とりわけ言語・コミュニケーション教育を「レジリエンス」という側面から考える。今後、我々の経験をどのように生かしていくことができるのかも含め多様な領域から議論する。執筆者：松下達彦、池田麻衣子、村田和代、秦かおり、嶋津百代、熊谷由理、吉田悦子、中村香苗、塗銘宏、チャプル・ジュリアン、横溝紳一郎、柳瀬陽介、岡本能里子



日本語プロフィシエンシー研究の広がり


鎌田修監修代表 鎌田修・由井紀久子・池田隆介編
A5判・480頁・978-4-8234-1137-3 定価4,400円＋税 発行2022.10💡

「プロフィシエンシー」(熟達度)が第一、第二言語使用者の運用能力研究に使われるようになって久しい。非流暢だが自然な日本語、視覚・聴覚障害者や定住外国人の社会エンゲージメント、談話分析、ライティング、e-Learning、教師養成など多岐多様に渡る日本語プロフィシエンシー研究の広がりを著者全員のピアレビューの後、一挙に披露した珠玉の論集である。執筆者：東健太郎、麻生迪子、池田隆介、和泉元千春、伊藤亜紀、伊東祐郎、岩崎典子、宇佐美まゆみ、閻琳、遠藤智子、奥野由紀子、鎌田修、北川幸子、阪上彩子、坂本正、桜井千穂、定延利之、佐藤慎司、島津百代、嶋田和子、白鳥文子、立部文崇、田中真理、塚田智冬、堤良一、中井好男、西川寛之、野山広、長谷川哲子、林良子、范一楠、船橋瑞貴、松田真希子、丸山岳彦、溝部エリ子、三井久美子、山路奈保子、由井紀久子



日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成

野田尚史・中尾有岐編


A5判・264頁・978-4-8234-1120-5 定価 3,200円＋税 発行 2022.3 

日本語学習者向けの聴解教材の作成方法を解説する。実際に聞く必要がある日本語を分析し、学習者が聴解で難しい点を調査した上で、コミュニケーションに役立つ聴解教材をどのように作成すればよいかを提案する。例として取り上げるのは「飲食店スタッフの発話を聞く教材」「雑談を聞く教材」「講義を聞く教材」「会議の発話を聞く教材」である。国語教育にも有益。執筆者：久保輝幸、阪上彩子、島津浩美、首藤美香、鋤野亜弓、高山弘子、太原ゆか、中尾有岐、中山英治、野田尚史、萩原章子、日比伊奈穂、村田裕美子、吉川景子



日本語コミュニケーションのための読解教材の作成

野田尚史・桑原陽子編

A5判・280頁・978-4-8234-1121-2 定価 3,200円＋税 発行 2022.11 

日本語学習者向けの読解教材の作成方法を解説する。実際に読む必要がある日本語を分析し、学習者が読解で難しい点を調査した上で、コミュニケーションに役立つ読解教材をどのように作成すればよいかを提案する。例として取り上げるのは「菓の表示を読む教材」「ネット上のクチコミを読む教材」「白書を読む教材」「論文を読む教材」である。国語教育にも有益。執筆者：任ジュヒ、王麗莉、加藤陽子、北浦百代、桑原陽子、小西円、塩田寿美子、白石実、蘇鉦甯、中島晶子、野田尚史、松下光宏、山口美佳、山本晃彦、吉本由美



データ科学 × 日本語教育

李在鎬編 A5判・328頁・978-4-8234-1099-4 定価 3,000円＋税 発行 2021.11

コーパスや統計、計量分析のような、データ科学に基づく実証研究の方法論と研究例によって、新しい日本語教育学の方向性を提示する。方法論編ではデータ科学の全体像を示した上で、データ構築の方法や分析手法を紹介。研究事例編では音声学、文字学、語彙論、文法論、文章談話論、文体論、日本語教育史の観点から最先端の研究例を紹介。執筆者：阿辺川武、岩崎拓也、大崎健一、小野塚若菜、木下直子、鯨井綾希、滝島雅子、田中祐輔、玉岡賀津雄、仁科喜久子、早川杏子、ホドシチェック・ボル、本多由美子、三谷彩華、村田裕美子、八木豊、李在鎬



場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック

中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・大谷つかさ・寺田友子著

A5判・484頁・2刷・978-4-8234-1090-1 定価 3,600円＋税 発行 2021.4

日本語教師として知っておくべき知識・技術を網羅した概説書。総ルビなので外国人日本語学習者の読解教材としても使える。文法知識、文法用語、主要な教科書との対応、母語話者の使用実態、誤用例、授業の指導案など専門知識がA1～B1程度の場面とコミュニケーションに結びつけて示されている。国内外の日本語教師の必携書。■ Kindle版も発売中。



ピア・ラーニング入門 改訂版 創造的な学びのデザインのために

池田玲子・館岡洋子著

A5判・186頁・978-4-8234-1172-4 定価 2,400円＋税 発行 2022.11 

好評の『ピア・ラーニング入門』改訂版。ピア・ラーニングとは、仲間(peer)同士で学び合う学習のこと。理論編として、協働の概念を整理し、様々な教育分野で実現された協働の形を紹介した上で、日本語教育における協働のありかたを探る。実践編として、ピア・レスポンス及びピア・リーディングの学習活動の例を紹介し、その意義について検討。さらに、ピア・ラーニングを実践する日本語教師の養成、研修について解説する。



アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング

協働実践研究のための持続的発展的拠点の構築

協働実践研究会 池田玲子編

A5判・248頁・978-4-8234-1088-8 定価 3,000円＋税 発行 2021.2

「ピア・ラーニング(協働学習)」は今や世界的潮流となった。アジア各地では従来の教育の変革が大きな課題となっている。そこで、日本語教育協働実践研究者たちが、アジア地域でピア・ラーニングを理解し実践するための実践研究拠点の構築に取り組んだ。本書は、そのプロセスと成果を報告した本。日本語教育のみならず教育関係者に必読の書。執筆者：池田玲子、舘岡洋子、近藤彩、金孝卿、トンプソン美恵子、朱桂栄、羅曉勤、金志宣、木村かおり、スニーラット・ニンジャローン、スック、ナイダン・バヤルマ、アリアンティ・ヴィシアティ、荒井智子、張瑜珊、菅田陽平、駒澤千鶴、房賢嬉、小浦方理恵



統計で転ばぬ先の杖

島田めぐみ・野口裕之著

A5判・128頁・978-4-8234-1028-4 定価 1,400円＋税 発行 2021.3

学術論文においても、統計手法の基本的な誤りを含むものが少なからずある。そこで本書では、統計手法を用いる時に気をつけるべきこと、今まで統計の書籍で取り上げられてこなかった「やってはいけない」ことを、特に日本語教育分野を例にまとめた。グラフ・表からサンプル数の考え方まで、すぐに役立つポイントや注意点を広く取り上げている。ウェブマガジンでの人気連載に、例や項目の大幅な加筆をして書籍化。



テキスト計量の最前線 データ時代の社会知を拓く

左古輝人編 A5判・176頁・978-4-8234-1072-7 定価 2,800円＋税 発行 2021.2

近年、計読(テキストマイニング、テキストアナリティクス、計量テキスト分析、質的データ分析)は人文・社会科学の多岐にわたる領域で応用が進みつつある。本書は単なるハウツーではなく、具体的な課題に計読の諸技法を本格的に適用した研究成果を集めた。思想史・概念史、学説研究、ジャーナリズム言説の分析、研究者ネットワークの分析など、研究会での議論を通じた切磋琢磨を経て、現代日本の計読研究の規準を提示する。執筆者：河野静香、左古輝人、鈴木努、橋本直人、樋熊亜衣、前田一步



「問う力」を育てる理論と実践 問い・質問・発問の活用の仕方を探る

小山義徳・道田泰司編

A5判・360頁・2刷・978-4-8234-1035-2 定価 2,800円＋税 発行 2021.3

学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。執筆者：生田淳一、植阪友理、小山義徳、亀岡淳一、鎗木良夫、小山悟、齊藤萌木、篠ヶ谷圭太、白水始、たなかよしこ、中山晃、野崎浩成、深谷達史、道田泰司、八木橋朋子



これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・274頁・2刷・978-4-8234-1089-5 定価 2,000円＋税 発行 2021.2

ライティングが専門でない、高校、大学、大学院の教員が使える、「書き方」と「研究方法」の指導テキスト。2008年に刊行した初版を改訂、時代に合った論文執筆へといざなう。学生の自習用としても充実している。主に人文社会科学系の領域向き。〔文章編〕では「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能を学ぶ。〔論文編〕では文献研究、実証研究の一連の流れを追って、テーマの設定から論文の評価まで段階を解説。授業で使える練習問題やアクティビティーが豊富。情報満載のダウンロードデータも用意している。■ Kindle版も発売中。



「書くこと」の授業をつくる

中・高・大で教える『はじめよう、ロジカル・ライティング』
名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科＋千葉軒士著
A5判・208頁・978-4-8234-1041-3 定価2,400円＋税 発行2021.4

論理的な文章を書くための日本語表現の教科書『はじめよう、ロジカル・ライティング』。この教科書ができるまでの経緯と、「意見文」の書き方を軸に論理的表現の基本を学ぶ本書の趣旨を解説し、授業の実践例を紹介する。中学・高校の国語や総合的な学習の時間、大学の日本語表現法の授業で本書を使った例を取り上げ、その成果と課題を具体的に解説。効果的な授業のための教科書の使い方の手引き。



あらためて、ライティングの高大接続

多様化する新入生、応じる大学教師
春日美穂・近藤裕子・坂尻彰宏・島田康行・根来麻子・堀一成・由井恭子・渡辺哲司著
A5判・184頁・978-4-8234-1082-6 定価2,200円＋税 発行2021.1

もとより高校と大学の間で構造的に切れてしまっているライティング教育をどうつなぐか——を考へる『ライティングの高大接続』の続編。今回はもっぱら大学教師の実践的研究にフォーカスし、理念と実践のベスト・バランスを目指す。「書くこと」の経験も能力もますます多様な新入生たちを迎えてなすべきは、結局「学習者のことを知って、教える」ことである。



英語科学論文をどう書くか 新しいスタンダード

保田幸子著 B5判・232頁・978-4-8234-1080-2 定価2,400円＋税 発行2021.11

国際的な発信力を高めたい大学・大学院生、研究者を対象とした英語科学論文執筆のためのガイドブック。トップジャーナルに掲載された最新の論文の分析に基づき、科学論文に関する様々な伝統的通説を反証し、21世紀型の新しい科学論文執筆法を解説する。読み手を効果的に導くための論文の構成、強調や緩衝などの微妙なニュアンスを伝えるための表現をサンプルの分析を通して段階的に学んでいく。読み手を引き付ける論文のコツを網羅的に学べる一冊。
<大学教育学会 JACUE セレクション選定図書>



ワイド新版 英語学習 7つの誤解

大津由紀雄著 A5判・208頁・978-4-89476-780-5 定価1,600円＋税 発行2022.3

「英語学習は早く始めるほどよい」、「留学すれば英語は確実に身につく」、「英語学習は母語を身につけると同じやり方で進めるのが効果的である」など、英語学習に関してよく耳にする7項目を取り上げて、それがじつは誤解であることをわかりやすく解説する。そのうえで、英語学習ではどんな方法が効果的なのかを探る。英語使いの達人たちがどうやって英語を身につけたかについてのアンケート調査の結果も収められている。NHK出版の生活人新書の改訂新版。



明日の授業に活かす「意味順」英語指導 理論的背景と授業実践

田地野彰編 A5判・2刷・328頁・978-4-8234-1087-1 定価3,000円＋税 発行2021.8

教育文法の最新理論「意味順」を活用した英語指導法の決定版、ついに登場。「意味順」を軸に英語指導の体系化をめざす。その理論的背景を、教育言語学、理論言語学、英語史、英詩研究の観点から検証するとともに、豊かな指導経験に基づいた授業への導入例を紹介する。中高から大学までの英語授業の未来を切り開く教師や研究者にとって必読の書。執筆者：田地野彰、金丸敏幸、川原功司、高橋佑宜、笹尾洋介、奥住桂、藤木克哉、山田浩、佐々木啓成、村上裕美、加藤由崇、渡寛法、桂山康司



ネット時代の中国語

張婧禕・玉岡賀津雄・王莉莎著
B5判・172頁・978-4-8234-1081-9 定価2,400円＋税 発行2021.3

この本は、“你有微信吗？(Wechatを持っていますか。)”などの中国の情報化社会で生活するために必要な表現をふんだんに取り入れた中国語教科書である。発音、語彙、文法、会話、読解など2年間連続して使用できるようにした。中国の社会・文化に関する豆知識、中国を短期間旅行するために必要な会話帳、読解、ドリルもあり、多様なニーズに対応できるよう構成した。
★音源はネットで提供。



小説のフィクションリティ 理論で読み直す日本の文学

高橋幸平・久保昭博・日高佳紀編

A5判・356頁・978-4-8234-1162-5 定価 4,000円＋税 発行 2022. 8

小説がフィクションであるとはどういうことか——。分析美学の影響下に、ポスト構造主義以降の文学・芸術理論を形成しつつあるフィクション論。欧米の主要な理論的アプローチを概観しながら日本独自の「フィクションリティ」を照射し、近現代小説の新たな読みを提案する。巻末に「読書案内」としてフィクション論主要文献リストを付す。執筆：高橋幸平、久保昭博、日高佳紀、河田学、大浦康介、黒田大河、中村三春、西田谷洋、服部徹也、飯田祐子、ホルカ・イリナ、山本歩、西川貴子、笹尾佳代、ポーヴィウ・マリ＝ノエル



卒業論文マニュアル 日本近現代文学編

斎藤理生・松本和也・水川敬章・山田夏樹編

四六判・242頁・978-4-8234-1146-5 定価 1,700円＋税 発行 2022. 10

日本近現代文学で卒論を書こうとしたら、何から手をつけたらよいだろうか。必要な準備、分析の手立て、執筆の進め方は？ 本書は、作品研究に重点を置いた、現代の研究環境を踏まえた上での卒論執筆のマニュアルとなる。テーマ決めの段階から提出前の推敲まで、読者をサポートする。執筆：安部水紀、荒井真理理、小谷瑛輔、斎藤理生、佐藤希理恵、武久真士、広瀬正浩、松本和也、水川敬章、山田夏樹、吉田恵理、吉田竜也、禰美智章、渡邊英理



昭和の文学を読む 内向の世代までをたどる

外村彰編 A5判・296頁・978-4-8234-1138-0 定価 2,000円＋税 発行 2022. 4

「昭和」の時代を1927年から1970年まで、象徴的に区切って全11章に仕立てた文学史のテキスト。各章の冒頭では読者に向け、当該の時代・社会状況から作品の解釈、あるいは文学者個人の動向までを絡めたいくつかの「問い」を提示した。また各章の後半には小説・童話・詩歌などを収録。文学史の学びプラス文学講読にも役立つよう編集をした書である。執筆：外村彰、橋本正志、辻本千鶴、田村修一、楠井清文、福田涼、島田龍、古澤夕起子、藤原崇雅、東口昌央



文学理論入門 論理と国語と文学と

疋田雅昭著 A5判・272頁・978-4-8234-1104-5 定価 2,200円＋税 発行 2021. 11

高校生の現代文が、文学的文章と論理的文章に「分離」されることとなった。この政策が単なる「分離」ではなく「隔離」であることは明らかだが、我々はこの「分離」を逆手にとって、新たな国語教育の可能性を模索してゆかねばならない。文学理論と文学教育をどう切り結ぶのか。そして、文学的文章と論理的文章の教育を有機的に組み合わせるには、何が必要なのか。専門的知から様々な領域に「接続」するための紐帯を提供する、新しい文学理論入門。



中高生のための本の読み方 読書案内・ブックトーク・PISA型読解

大橋崇行著 四六判・226頁・2刷・978-4-8234-1027-7 定価 1,800円＋税 発行 2021. 1

Webマガジン「未草」で連載された「中高生のための本の読み方」が書籍化。中学生、高校生に向けて、本の読みどころや、読むときに有効となる視点などをブックトークの形式で紹介し、読書案内としても使うことができる。また、書き下ろし部分では、さまざまな読書会の進め方や、国語の新学習指導要領とも深く関わるOECDのPISA型読解力を身につけていく上で、読書をどのように活用していけば良いのかについて解説している。■ Kindle版も発売中。




一人ひとりのことばをつくり出す国語教育

府川源一郎著 A5判・352頁・978-4-8234-1141-0 定価 2,800円＋税 発行 2022. 3

国語教育は、ことばによる一人ひとりの自立を支援する教育的営みである。学びの場でそれを具体的に実現するには、どのような準備と考え方が必要なのか。本書は、この問題を以下の三つの観点から検討する。1. 国語科の教育内容の問い直し、2. ことばの学びの成立に関わる事例の考察、3. 史的観点からの位置づけの更新。新稿も含めて、著者による最新の成果を集めた創見に満ちた論考集。



国語科における「話し合い」学習の理論と実践

内田剛著 A5判・352頁・978-4-8234-1124-3 定価 7,800円＋税 発行 2022.3 

新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン・ツールの普及によって、私たちのコミュニケーションは否応なしに変化を迫られている。このような変化の時期だからこそ、私たちは冷静に「話し合う」ことの重要性を再認識しなければならない。本書は明治期から現在における国語教育の「話し合い」学習が、どのような理論や目標に基づいて行われてきたかを分析した上で、今求められる「話し合い」学習の具体的な実践案を提案している。



明治・大正期国語科の成立と修身科との関わり

文学教材は何を伝えたのか

山本康治著 A5判・312頁・978-4-8234-1075-8 定価 6,200円＋税 発行 2021.2

明治・大正の教育は、忠君愛国とそれに基づく家族国家観の形成に向けて、修身科を頂点とした教育体系により展開していた。その中で文学教材は、修身科にあつては、「教訓・訓戒」のための題材として、国語教育実践の場においては、それらに抗う、児童主体の「想像」を重視した題材として扱われていった。本書では、当時の国語教育の実相を捉えるとともに、脱文学の方向性を示している現在の国語教育のあり方についても考察する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



明治期の幼稚園教育と童話 小学校教育・児童文学との関わりから

北川公美子著 A5判・356頁・978-4-8234-1084-0 定価 7,200円＋税 発行 2021.2

日本の幼稚園教育の歴史の中で、童話との関係は深く、その初期から「談話・説話」の保育項目の中で取り上げられ、現在でも教材として重要な役割を担っている。本書では、そのような童話が、幼稚園教育の黎明期である明治期において、どのように保育の中へ導入され、受容されてきたかを、小学校教育や児童文学、及び社会状況との関わりを踏まえ、実証的に検証することにより、保育内容としての童話の成立過程の一端を明らかにした。



中国現代文学 24


中国現代文学翻訳会編

A5判・152頁・978-4-8234-1107-6 定価 2,000円＋税 発行 2022.3 

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第24号。双雪濤「平原のモーセ」(連続強盗殺人事件と二人の幼なじみは、どうつながっていくのか?)、畢飛宇「作り事」(亡き祖父の最後の願いとは?)、王蒙「灰色の鳩」(80年代初めの中国、農村から都会へ出稼ぎにやってきた若者の夢と現実)、史鉄生の晩年の詩三編(「今晚は夜明けまで起きていよう」「トーニャとニーチェ」「グリゴラ」)、本の紹介などを掲載。



エドモン・ド・ゴンクール著『北斎』覚書

鈴木淳著 A5判・208頁・978-4-8234-1115-1 定価 3,800円＋税 発行 2022.8 

エドモン・ド・ゴンクール著『北斎』は、著者が古美術商林忠正の助力を得て、北斎に美術史上の評価を与えた、先駆的業績であるが、その評価はいかなるものであったか。筆者の見解は、ゴンクールが、「版画の世紀」と謳われたエッチングを中心とするフランス版画と同じ土俵に北斎を上せ、版画家でもあった弟ジュールとの共著『十八世紀の美術』の延長線に、世界美術史上の類稀なデッサン画家として位置付けたというものである。



大学が地域の課題を解決する

ポートランド州立大学のコミュニティ・ベースド・ラーニングに学ぶ
白石克孝・西芝雅美・村田和代編

A5判・288頁・978-4-8234-1003-1 定価 3,600円＋税 発行 2021.9

大学に求められる新たな役割とは。本書では、ポートランド州立大学で展開している地域連携型教育プログラムを多角的な視点から紹介し、地域変革のアンカーとしての大学のモデルを提示する。国内の先進事例として京都の産学官民連携で展開してきた地域公共人材育成にもふれながら、これからの大学の新しい役割について考える。パイリンガル版(英日)。執筆者：ケヴィン・ケスカス、西芝雅美、ステイブン・パーシー、ジュディス・ラメイリー、サイ・アドラー、エイミー・スプリング、セリーン・フィッツモリス、向野也代、ジェニファー・アルカズウィーニー、飯迫八千代、クリスティーン・クレス、レイチェル・サミュエルソン、シェリル・ゲルモン、白石克孝 ■ Kindle版も発売中。



パフォーマンス・アプローチ心理学 自然科学から心のアートへ

フレド・ニューマン、ロイス・ホルツマン著 茂呂雄二監訳 岸磨貴子・北本遼太・城間祥子・大門貴之・仲嶺真・広瀬拓海訳

A5判・322頁・978-4-8234-1160-1 定価 2,800円＋税 発行 2022.10

19世紀の成立以来、危機が叫ばれ続けてきた心理学。現在の隆興も、科学性の勝利というよりも、社会と文化の心理学化と心理学の産業化の結果にすぎないと批判するニューマンとホルツマンは、生活の形を変えるためのアートとしての心理学を提案する。それは自然科学を模倣し心の内部を覗き込み測定する科学的心理学を超えて、人々がコミュニティー作りを通して、新しい振る舞い、新しい声、新しい生を紡ぎ出す新しいアプローチだ。原著：Fred Newman and Lois Holzman (著) *Unscientific Psychology: A Cultural-Performatory Approach to Understanding Human Life*.



小劇場演劇とは何か

後藤隆基編 A5判・256頁・978-4-89476-972-4 定価 3,600円＋税 発行 2022.3

近代日本演劇史に〈小劇場演劇〉を位置づけ、その流れを辿る。さらに歴史的観点とともに、現在においてどのような劇団がどのような活動をしているのか、現代の小劇場演劇の諸相についても考察する。また、日本に留まらず世界の小劇場演劇の様相についても概説し、総合的に小劇場演劇について理解を深めることができる一冊。執筆者：石川巧、梅山いつき、加藤敦子、後藤絢子、後藤隆基、嶋田直哉、高萩宏、仲田恭子、中村邦生、新野守広、早船聡、日置貴之、堀切克洋、松本和也



聖書ヘブル詩の並行法 詩行の反復表現が表すもの

津村俊夫著 A5判・268頁・978-4-8234-1135-9 定価 4,800円＋税 発行 2022.11

本書は聖書に記されている詩(ヘブル詩)について、詩独自の文法に注目することで新たな解釈を示す。詩の文法を分析する必要性を唱えた、ヤーコブソンの議論を踏まえて、ヘブル文字をローマ字転写した本文と最新の邦訳聖書を比べながら、漢詩やモンゴル語、スラブ語の詩にも見られる並行法の特徴を、多くの具体例から検討する。聖書学だけでなく、言語学・詩学の研究にも資するところが大であろう。



デュルケーム世俗道徳論の中のユダヤ教

ユダヤの伝統とライシテの狭間で

平田文子著 A5判・304頁・978-4-8234-1101-4 定価 7,000円＋税 発行 2022.2

デュルケームは、ラビの継承者でありながらユダヤ教信仰を棄ててフランスの世俗道徳論者になった。この通説に対して、ユダヤ教に根拠を置いて彼の道徳的連帯論を検討することが本書の目的である。近代以降キリスト教に対抗して進展してきた民主主義は、その基盤に世俗主義を掲げてきた。彼の世俗道徳論をユダヤ教の法概念に照らして解釈することは、「キリスト教から世俗主義へ」という近代西洋思想の展開に新たな視点を与える。(日本学術振興会助成刊行物)



ディラブディ

與那覇悦子・山本史・山田真寛

A4判・40頁・978-4-8234-1050-5 定価 1,600円＋税 発行 2022.5 

与那国島の民謡を元にした与那国語による創作物語。与那国語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

おなかをすかせた子どもたちのために、ディラブディはたいまつを、ウデヤマとイサは銚子を持って、アプヒティ浜に魚をとりに行きました。イラブタイユ、ミサダイユ、ミーバイ、カタカシン…ウブダヌ浜に上がって突いた魚を数えると、360匹! 家族みんなでおなかいっぱい食べました。



星砂の話(ふしぬ いんのぬ はなし)

内盛スミ・山本史・中川奈津子

A4判・40頁・978-4-8234-1051-2 定価 1,600円＋税 発行 2021.12 在庫僅少

竹富島に伝わる伝説。竹富語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。お母さん星とお父さん星が星の子供を生む場所に、大明神の言うことを聞いて竹富の南の海を選んだが、七竜宮神の怒りに触れてしまい…。竹富島の真っ白な美しい浜には、星の形をした砂が落ちている。この星砂がなぜ竹富にあるのか、またこれにまつわる儀式をなぜおこなっているのか。竹富島の自然や風習と神様がつながっていて、その近さがわかります。



カンナマルクールの神(カンナマルクールクぬ かむ)

野原正子・山本史・下地賀代子

A4判・40頁・978-4-8234-1052-9 定価 1,600円＋税 発行 2021.12

多良間島に古くから伝わる昔話。多良間語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

多良間島に生まれた絶世の美少女カンナマルクール。島の若者たちはその美しさに、寝食を忘れるほど魅了され次々倒れていく。これを案じた守姉は、カンナマルを浜へと連れ出した。魚を焼いて食べさせている間に岩陰に隠れ、そっと見ていると…。物語の中には実在する海や拝所も出てきます。



塩一升の運(ましゅ いっしゅーぬ くれー)

松村雪枝・田中美保子・山本史・横山晶子

A4判・44頁・978-4-8234-1053-6 定価 1,600円＋税 発行 2022.1 

沖永良部島で古くから伝わる昔話。沖永良部語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

浜辺で長者がうたた寝していると、神様たちの話し声が聞こえてきた。集落で生まれた赤ん坊に運命を授けに行くという。女の子には塩一升の運、男の子には竹一本の運が授けられた。二人はやがて夫婦になるが、ある事がきっかけで夫が妻を追い出してしまう。数年後再会した二人はすっかり命運が分かれていて…。言葉と語りの多様性を感じられる絵本です。




カルタ

んきゃーんじゅくカルタ(宮古島の昔のことわざカルタ)

宮古語・日本語・英語の三言語カルタ

さどやませいこ絵・ことわざ選定 藤田ラウンド幸世編

箱入り・読み札 48枚/絵札 48枚・978-4-8234-1182-3 定価 2,500円＋税 発行 2022.10 

宮古島のことわざ、「んきゃーんじゅく(先人の知恵)」。昔の宮古島の自然と生活風景がことわざの中に残されている。カルタの読み札は、宮古語、日本語、英語の三言語、宮古語はQRコードからさどやませいこさん(1950年生まれの宮古島ネイティブ、ことわざ選定と絵を担当)の声で聞くことができる。付属の解説シートとさらにウェブサイトのことわざや宮古島の先人の知恵について紹介。「んきゃーんじゅく」で宮古島の魅力を満喫できる。



これから刊行する書籍のご案内

ひつじ研究叢書(言語編)

第94巻 日本語情態修飾関係の研究

矢澤真人著 A5判・978-4-89476-544-3

日本語の情態副詞に関する研究。3部からなる。第1部は副詞研究史。明治期から現代まで、副詞や連用修飾関係の研究が何を目的としてどのように行われたかを概観する。第2部は情態修飾関係分類論。語順、修飾の奥行き、アスペクトの意味への制限と言った基準から、情態修飾関係の機能的な分類を試みる。第3部は日本語語順論。格成分と修飾成分の相互語順の検討を通して、文の階層的構造を明らかにする。

第114巻 複合辞研究

その成り立ちと広がり

松木正恵著 A5判・978-4-89476-661-7

日本語の複合辞に関する総合的研究。5部からなる。第1部は複合辞研究史で、複合辞と隣接した後置詞・形式副詞等も射程に入れながら概観する。第2部は複合辞と引用表現との関わり、第3部は複合辞と文法化との関わり、第4部は複合辞と連体修飾・連用修飾との関わり、といった各側面からの考察で、個別表現を取り上げ記述する。第5部は複合辞認定論で、複合辞とは何か、どのように認定すべきかという根本的な難問について試論を提示する。

第174巻 推論と証拠性

認知構造の日中対照研究

呉蘭著 A5判・978-4-8234-1038-3

日中証拠性表現を一般言語学的に位置づけ、認知意味論の観点から、各表現の共通点と相違点を明確に詳述する。また証拠性表現の各用法の関連性も統一的・包括的に説明し、さらに隣接する認識モダリティ表現との相違や共起制限も通言語的な理由で説明する。そして、認知類型論の観点から、推論過程全体を表示する傾向がある日本語タイプと、推論結果の焦点のみを表すことが多い中国語タイプに分類し、これを他の言語にも適用できると予測する。

第176巻 中国語の役割語研究

河崎みゆき著 A5判・978-4-8234-1055-0

中国語にも役割語が存在するのか、するならどのような生態で、中国語の特質とどう関係するのか、翻訳や外国語教育、言語学に貢献しうるかを以下の面から調査研究した。1. 中国語の方言と人物像、2. 中国伝統の「役割語」、3. 非言語行動と人物像、4. 非言語成語と人物像、5. 命名と人物像、6. ネット上のキャラ現象、7. 「役割語」のリソースとしての小学校語文教科書。2017年に北京・商務印書館より発行した本の日本語版。

第189巻 形容詞類およびオノマトペの形態統語的研究

漆原朗子著 A5判・978-4-8234-1140-3

形容詞類は動詞・名詞に比して通言語的な変異が顕著である。本書では、まず諸言語の形容詞類の形態統語的特徴を概括する。そのうえで、日本語の形容詞といわゆる「形容動詞」の範疇と統語的振舞いを分散形態論の枠組みで分析、朝鮮語と比較する。その際には述語化にかかわる繫辞(コピュラ)の同定も行う。さらに、日本語に特徴的なオノマトペの様々な用法についても、それらの意味と形態統語的実現の対応に関する分析を提示する。

第191巻 語用論的方言学の方法

小林隆著

A5判・978-4-8234-1150-2 定価8,800円+税

近年、語用論の発展はめざましいものの、歴史語用論や社会語用論に比べ、日本語の地理的側面についての語用論は遅れている。本書はそうした状況を踏まえ、方言学の世界に語用論的な見方を導入し、新たな方言学を切り拓こうとするものである。対象は言語行動、談話に留まらず、オノマトペや感動詞の運用、文法論との接点に及ぶ。また、それらの現象を背後から操る「言語的発想法」の地域差をあぶり出そうとするところに特色がある。(日本学術振興会助成予定刊行物)

第192巻 話し言葉における受身表現の日中対照研究

陳冬姝著 A5判・978-4-8234-1151-9

日本語の受身文と中国語の“被”構文に関して、統語的・意味的観点から多くの知見が蓄積されているが、ほとんどは書き言葉を中心とするものであった。本書では、これまで重点的に論じられてこなかった話し言葉における日中受身表現の使用傾向に注目し、その非対称性、述語動詞の類型分布、主語の選択傾向、使用頻度の差などを調査・比較し、意味的機能・談話的機能のどちらをより重視するかという点を軸に、日中受身表現の使用の共通点・相違点の全体像を示した。

第193巻 現代日本語における意図性副詞の意味研究

認知意味論の観点から

李澤熊著

A5判・978-4-8234-1171-7 定価7,000円+税

現代日本語の副詞に関する諸研究を整理・検討し、認知言語学の観点を視野に入れ、意図性に関わる副詞的成分22語の副詞における位置付けを提案する。また、従来の優れた意味分析の手法に加え、認知意味論の主要概念を援用し、22語のそれぞれの意味と相互の意味の類似点・相違点を明らかにすることによって、日本語の意味研究に新たな端緒を与えるとともに、他の品詞に比べて遅れをとっている副詞研究のさらなる発展・深化を目指す。(日本学術振興会助成予定刊行物)

第194巻 副詞から見た日本語文法史

川瀬卓著

A5判・978-4-8234-1174-8 定価7,200円＋税

本書は、アスペクト、否定、モダリティ、行為指示や感謝・謝罪における対人配慮などの、日本語の文法現象と関わる副詞をいくつか取り上げ、副詞を視点として日本語文法史に迫ることを試みたものである。個々の副詞の歴史変化を記述するとともに、それを通して、副詞に見られる文法変化のありようを示し、日本語の歴史の時代的動向についても論じる。語史研究の先にある、副詞の歴史的研究の新たな可能性を実践的に示した書。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

第195巻 獲得と臨床の音韻論

上田功著

A5判・978-4-8234-1177-9 定価5,000円＋税

幼児の言語発達期に見られる発音の遅れや誤り、機能性構音障害と呼ばれる体系的な誤構音につき音韻理論からのアプローチを試みる書。伝統的古典的生成音韻論から、自然音韻論、素性階層理論、素性不完全指定理論、近年の最適性理論に至る理論の発展に伴い、幼児の誤構音にどのように光が当てられてきたかを、日本語と英語の誤構音のデータを分析の俎上に上げて議論を進める。臨床現場の活動と理論的な分析は車の両輪である。分野横断的で学際的な書である。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

第196巻 日本語と近隣言語における文法化

ナロック・ハイコ、青木博史編

A5判・978-4-8234-1169-4

本書は、日本語及び近隣言語に焦点を当て、これらの言語における文法化の特徴の解明に取り組んだものである。日本語では、漢文訓読からの文法化や、接続詞の文法化、係り結びと文法化、さらに理論面では文法化と(間)主観化類推など、多様な側面から文法化現象が取り上げられ、近隣言語では琉球語と中国語が日本語にはない文法化の様相を見せており、今後の研究の土台となる。執筆者：青木博史、北崎勇帆、小柳智一、ジスク・マシュー、柴崎礼士郎、下地理則、高橋圭子、ナロック・ハイコ、東泉裕子、宮地朝子、李佳樑

第197巻 プラグマティズム言語学序説

意味の構築とその発生

山中司・神原一帆著 A5判・978-4-8234-1184-7

現代的な意味論や語用論といった分野は分析哲学から派生したため、言語学と哲学は密接な関係にある。本書は言語学において議論されることが少ないプラグマティズムという哲学の概念が言語分析の基礎概念として機能することを示すと共に、その帰結を論じることを試みる。本書はプラグマティズムに加え、身体性、フレーム理論、ネオ・サイバネティクスといった概念との関係について詳細に論じる初の学際的な研究書でもある。

講座 言語研究の革新と継承 [全8巻]

3 語用論

林宅男編 A5判・978-4-89476-669-3

幅広い語用論研究の分野を広くカバーし、現代の語用論研究

を見通せることができる一冊。執筆者：高見健一、井出祥子、加藤重広、金水敏、龍城正明、泉子・K・メイナード、松本善子、林礼子、小野寺典子、益岡隆志、西山佑司、澤田治美、山口治彦、野田尚史、庵功雄、牧野成一、岩崎勝一、内田聖二

言語学翻訳叢書

22 これからの言語学(仮)

ダイナミックな視点から言語の本質に迫る統語論

ジム・ミラー著 岸本秀樹監訳 吉田悦子・久屋孝夫・三浦香織・久屋愛実訳 A5判・978-4-8234-1091-1

言語には異なるモード(話しことば、書きことば)や変種(地域的、社会的)が存在する。本書は、統語分析の対象から外されることが多い標準から逸脱した変種であっても、信頼できるデータを十分に観察すれば、言語現象を適切に分析できることを解き明かす。多彩な実例から言語の本質に迫ろうとするアプローチは、記述文法のみならず、形式文法においても十二分に価値を持つ。丁寧な訳注とコラムも付いて、新たな文法研究に挑む醍醐味を実感できる一冊。原著：Jim Miller (著) *A Critical Introduction to Syntax*.

シリーズ言語学と言語教育

45 日本語学習から見た〈機能語〉の類の研究(仮)

日本語能力試験1級〈機能語〉の類の分類に基づいて
松原幸子著 A5判・978-4-8234-1149-6

かつて日本語能力試験には「出題基準」というものがあり、そこには1・2級のレベルを示すために〈機能語〉のリストが五十音順に掲げられていた。これは現在も有効であると考えられているが、明確な定義や規定はなく、体系的・理論的に論じられることもなかった。本書は1級の〈機能語〉の類の一つ一つを主に品詞に基づいて分類し、文法的働きを確かめることを通して、その特色と日本語学習上の位置付け、さらに学習の意義を明らかにすることを目指した。

46 作文教育の日中対照研究

前川孝子著 A5判・978-4-8234-1185-4

中国語を母語とする日本語学習者が日本語で書いた作文は、文法としては正確なのに、「何か」が違う。それは何なのか。それは何に由来するのか。この疑問に答えるため、本書では日本・中国それぞれの国語における作文の規範に注目する。両国において模範と見なされる文章の分析を通じて、「意見はどのように書かねばならないか」「どのように論証しなければならないか」という枠組みの差異を多面的に明らかにする画期的研究。

シリーズ日本語を知る・楽しむ

3 季節のつめ合わせ(仮)

古代文学編

福田孝著 四六判・978-4-8234-1152-6

奈良平安期の有名12作品の散詩文集。季節の風物が出てくる原文を読みながら各作品の特徴をわかりやすく説明する。古めかしい衣装をまとっているかもしれない作品をいまの作

品のように身近に感じて自身で手に取って楽しく読むための案内書でもある。春『土左日記』『伊勢物語』『うつほ物語』『古事記』夏『和泉式部日記』『枕草子』秋『源氏物語』『かげろふ日記』『竹取物語』『万葉集』冬『おちくぼ物語』『更級日記』。

シリーズ 言語・コミュニケーション研究の地平[全3巻](伝康晴・前川喜久雄・坂井田瑠衣監修)

自己と対峙する

吉川正人・佐治伸郎・土屋智行編
A5判・978-4-8234-1125-0

LC(Language and Communication)研究会による研究成果をまとめたシリーズ。本書では、言語行動だけでなく、音韻や構文など言語知識の内実、言語の構造的側面や規則性に関する探求も含め、ヒトの内的プロセスに目を向けることを「自己と対峙する」と捉えた。様々な分野にまたがるバラエティ豊かな論考を収録。執筆者：浅原正幸、石本祐一、加藤祥、佐治伸郎、全美柱、田島弥生、土屋智行、寺岡文博、堀内ふみ野、前川喜久雄、吉川正人

他者と対峙する

有本泰子・坂井田瑠衣・岡田将吾編
A5判・978-4-8234-1126-7

LC(Language and Communication)研究会による研究成果をまとめたシリーズ。他者とのコミュニケーションにおいては、感情状態、非言語的要素、背景にある社会的関係といった様々な要素が絡み合う。本書には多様なアプローチからの論考を収録し、「人はいかにして他者と対峙するのか」という根源的な問いに迫る。執筆者：天谷晴香、有本泰子、居關友里子、榎本美香、岡田将吾、岡本雅史、小室允人、坂井田瑠衣、城綾実、伝康晴、坊農真弓、山本真理

シリーズ フィールドインタラクション分析(高梨克也監修)

2 鮎屋で握りを注文する(仮)

平本毅編 A5判・978-4-89476-732-4

この巻では、江戸前鮎屋にフィールドを求め、親方をはじめとする店員と客とのインタラクションを分析する。和食のユネスコ無形文化遺産登録もあって、日本の食文化が世界的に注目を集めているが、日本の食文化の少なくとも一部は、外食サービスの現場で形成されるものはずである。鮎屋の注文場面の分析を通じて、独特なインタラクションの形式が、そうした文化をどう生み出しているかを論じる。執筆者：黒嶋智美、平本毅、山内裕

5 「三夜講」で火祭りを準備する

野沢温泉道祖神祭りの伝承を支える仕組み
榎本美香編 A5判・978-4-89476-735-5

この巻では、北信濃野沢温泉の道祖神祭りの準備を担う「三夜講」と呼ばれる3世代100名程度の集団の協働インタラクションを分析する。言葉では表現しきれない身体技法や作法とともに、目上の者への礼儀を重んじ、公の前に自己犠牲を厭わず、誠意のある仕事をするという伝統的精神が伝承される様を著す。執筆者：阿部廣二、榎本美香、坂井田瑠衣、高梨克也、寺岡文博、伝康晴、坊農真弓、細馬宏通

2 新世紀の文学研究

一国主義を超えて
千野拓政・鳥羽耕史編 A5判・978-4-89476-979-3

グローバル化とともに激変する世界の中で、難しい位置に立つ文学。もはや日本、中国といった単体で考える意味は薄れている。創作の現場で作家はどのような問題に直面し、研究者はそれをどう捉えることができるのか。日本と中国の最先端で活躍する作家・研究者が文学の現状と未来を語り尽くす。執筆者：酒井直樹、古川日出男、閻連科、王曉明ほか

3 人文学の明日を見つめて

世界はどこへ向かうのか？
千野拓政・草原真知子編 A5判・978-4-89476-980-9

文系・理系の垣根を越えて広がる人文学。今、その最先端で何が起きているのか。それは多様化する世界の姿を捉えられるのか。俊英が新たな地平を切り開く。あわせてアジアで人気を博しながら欧米では反響のなかったアニメ『君の名は。』を世界の視点から語る。執筆者：エルキ・フータモ、東浩紀、ドミニク・チェン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノほか

「ぬらりひょん」な日本語文法を目指して

「コミュニケーション」と「文法」を捉え直す
小林ミナ・船橋瑞貴編 A5判・978-4-8234-1034-5

「文法」とは、唯一絶対の固定的なシステムではなく、個別具体の状況に寄り添いながら「言語」と「言語でないもの」が複雑に絡み合って存在する実態である。浮き世の有様を丹念に観察するとどのような「文法」が描き出せるのか。変幻自在な掴みどころのない妖怪とされる「ぬらりひょん」の名を付し、新しい「文法」のあり方を示す画期的な1冊。執筆者：太田亨、金田純平、衣川隆生、クレアマリイ、小林ミナ、定延利之、滝浦真人、船橋瑞貴

話し言葉の多様性(仮)

山崎誠・柏野和佳子編 A5判・978-4-8234-1086-4

話し言葉のコーパスが充実するにつれ、話者の属性、会話の場面や目的などにより、話し言葉が多様な姿を見せることが分かってきた。本書は、国立国語研究所の「日本語日常会話コーパス(CEJC)」のプロジェクトで開催したシンポジウムでの発表をもとに、音韻、語彙、文法、文体の諸側面から話し言葉の多様性を明らかにしようとするものである。執筆者：山崎誠、小磯花絵、石井久美子、入江さやか、河野礼実、高崎みどり、村井源、柏野和佳子、丸山直子、金青華、茂木俊伸、飯間浩明

5 分間で言語学 一口サイズのことばへの誘い

リッカーソン・ヒルトン編
上田功、大津智彦、加藤正治、早瀬尚子監訳
A5判・978-4-89476-840-6

ことばは、空気のように我々の周りに当たり前に存在し、かつ不可思議で複雑である。本書では、一流の言語研究者が平

易な語り口で、未知なることばの世界へと読者を誘う。60からなる各章は短い。言語の起源、動物の言語、世界の書き言葉、手話言語、言語の変化等、様々な角度からことばに迫る。時間の許すときに手に取り、読み始めてみよう。翻訳者：上田功、大津智彦、加藤正治、金子理紗、奥藤里香、田中瑠子、高森理絵、中尾朋子、早瀬尚子、渡邊拓人

データから眺めた言葉とコミュニケーション (仮)

大津隆広編 A5判・978-4-8234-1043-7

言語コーパスや音声・映像などの多様な言語・非言語データをベースに、言葉やコミュニケーションに関わる言語の諸相を分析した研究書。テンスやモダリティ、構文分析、談話標識やフィラー、会話パフォーマンスや日本語母語話者と非母語話者の相互行為能力、文法化や言語接触など、言語・非言語データをもとにした言語研究のアプローチ方法を示す。執筆：内田論、大津隆広、大橋浩、土屋智行、冬野美晴、松村瑞子、山下友子、山田明子、山村ひろみ、横森大輔、劉錫、Edmundo Cruz Luna

日本語おもしろ事典

高山善行・中井精一・森山卓郎著
A5判・978-4-8234-1168-7

私たちが話したり、書いたり読んだりしている日本語の面白さを考える。現代語の地域の言語から、文法や日本語の歴史などのことばをめぐる意外なありようを考えていく。素朴な疑問から、ちょっと変わった問いかけやどきっとする不思議ないいかたなどまで、100ほどの項目で、コラムもあり、ことばの面白さを感じることができるとなっている。

上田万年再考

日本言語学史の黎明
長田俊樹著 A5判・978-4-8234-1170-0

本書の目的は既存の通説を打破して、新しい上田万年像を打ち立てることである。上田万年は称賛するにせよ、批判するにせよ、西洋言語学を日本に導入した人という評価は変わらない。その評価はどこまで正しいのか。そこが本書の出発点である。新村出筆録・柴田武校訂(1975)『シリーズ名講義ノート・上田万年 言語学』をネット上にある上田が参照したと思われる原書文献と照らし合わせ、上田の西洋言語学理解を検証する。

日本語文法史研究 6

青木博史・小柳智一・吉田永弘編
A5判・978-4-8234-1173-1

本書は、日本語文法史研究の最新の研究成果を発信する論文集の第6号である。今号では「対照研究」をテーマとする小特集を組んだ。日本語諸方言、琉球語、韓国語、スペイン語といった対照研究の成果4本の他、当該分野の研究の深化を示した研究論文5本、今後の研究の展望を示したテーマ解説と名著紹介、直近2年分の研究文献目録を取めている。執筆：青木博史、荻野千砂子、北崎勇帆、小柳智一、酒井雅史、澤田淳、志波彩子、竹内史郎、三宅俊浩、森勇太、吉田永弘

小説の描写と技巧 (仮)

山梨正明著 四六判・978-4-8234-1183-0

一般に、小説に代表される散文芸術を特徴づける言語表現には様々な描写の技巧が関わっている。本書は、認知言語学の視点から、特に小説を特徴づける描写の主観性と客観性の側面に焦点をおきながら、文学テキストの創造性に関わる修辞技巧の問題を考察していく。小説の表現技巧の研究に貢献するとともに、叙述と描写に関わる文体論の基礎研究として重要な知見を提供する。また、小説の作品論と作家論の研究にも新たな視点を提示する。

片岡邦好 談話分析著作選集 第1巻

メディア談話のクロスモーダル分析
片岡邦好著 A5判・978-4-8234-1178-6

1 メディア談話、2 道案内と空間描写、3 ロッククライマーの身体とナラティブ分析を扱うシリーズ全3巻の第1巻。マルチモーダル分析の手法を駆使し、メディア談話研究の可能性を拓く論文集。本書は社会言語学・言語人類学的アプローチを用いながら、書記言語、音声言語、パラ音声、身体表象などを統合的に分析対象とすることを目指し、認知的かつミクロな相互行為分析に着目する「マルチモーダル」の視座と、本書で「クロスモーダル」と呼ぶ個々の集団や文化的規範を重視するアプローチにより、メディア談話の新たな側面に光を当てる。

古代エジプト語のヒエログリフ入門 (仮)

ロゼッタストーン読解に挑戦
永井正勝編 宮川創・吉野宏志・永井正勝著
A5判・978-4-8234-1155-7

「ヒエログリフ(聖刻文字)」の世界へと読者を案内する学術的な入門編。ヒエログリフの仕組みからロゼッタストーンに刻まれたヒエログリフに至るまで、初学者向けに解説しながら丁寧に読み解く。ヒエログリフの解読に繋がったロゼッタストーンには、何が書いているのか? エジプト語の言語的な位置付けから、ことばの構造、それぞれの文字の読み方・意味を解説。ウェブマガジンでの人気連載に、大幅な加筆をして書籍化。

自閉スペクトラム障害の言語

幕内充編 A5判・978-4-8234-1157-1

自閉症児が終助詞「ね」を全く使わないという、衝撃的な綿巻徹の1997年の報告にinspireされた言語学と医学領域の研究が協同して自閉スペクトラム障害における終助詞使用の研究に取り掛かった。カートグラフィーの創始者であるリッツィが理論を解説(日本語訳 遠藤)、その理論を遠藤が日本語終助詞に応用する。執筆：木山幸子、和田誠、遠藤喜雄、Luigi Rizzi、幕内充、他

イン/ポライトネス

からまる善意と悪意
滝浦真人・椎名美智編 A5判・978-4-8234-1159-5

ポライトな言葉は予定的に調和するが、インポライトなそれは隠微に絡み合う。21世紀以降、インポライトネスが言語研究者らを惹きつけているが、建前と本音を分ける日本では、

未だ数えるほどしか研究がない。待たれていた初のインポライトネス論集として、漱石作品やママ友のバトルを解剖し、悪態・毒舌・ディスりを剔抉、善意が悪意に転じる契機を捉える。執筆者：阿部公彦、大塚生子、佐藤亜美、椎名美智、滝浦真人、福島佐江子、柳田亮吾

パソコンがあればできる！ ことばの実験 研究の方法 第2版

容認性調査、読文・産出実験からコーパスまで
中谷健太郎編 A5判・978-4-8234-1166-3

内容を大幅に刷新・増補した第2版刊行。パソコンのできる実験研究の初心者向け実践方法(容認性調査、自己ペー
ス読文課題、語彙性判断課題、言語産出課題、コーパス、CHILDES 検索法)を紹介する。第2版では実験ホスティングサービス PCibex Farm と Gorilla の基本的な使用法、アメリカ英語のコーパスとして定評ある COCA の検索法を新たに追加。執筆者：青木奈律乃、浅原正幸、有賀照道、木戸康人、田中幹大、中谷健太郎、中野陽子、長谷部陽一郎

メタファー研究 3

特集：身体性
鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰・河野哲也・菅村玄二編
A5判・978-4-8234-1132-8

言語学、心理学、工学など、様々な立場からレトリックを研究し、意見交換する場を提供することを目的とした日本語用論学会メタファー研究会の発表を中心としたシリーズ。第3巻では特集「身体性」を中心に多様な論文を収録。執筆者：河野哲也、菅原和孝、三村尚彦、加藤祥・浅原正幸、福市彩乃・村上祐介・菅村玄二、山本佑実・菅村玄二、岡村心平、児玉北斗、秋田喜美、武藤彩加、町田章、杉本巧

日本における言語社会化ハンドブック

クック治子・高田明編 A5判・978-4-8234-1049-9

人類学、言語学、心理学、社会学などが交差する領域で近年発展し、注目されている「言語社会化」アプローチの古典と最新の研究をまとめて紹介する本邦初の書籍。言語社会化の研究は、文化的新参者が「文化の文脈」と関連させつつ「状況の文脈」をどのようにとらえるのか、またそうしたとらえ方を文化的熟練者がどのように示唆するのかを明らかにする。これにより、「言語を使うための社会化」と「言語を使うことを通した社会化」を結びつけながら追究する。

言語教育とコメニウス

松岡弘著 A5判・978-4-8234-1100-7

現代の外国語教育の内容と方法、その基本理念は、実に四世紀も前に一人のチェコ人牧師かつ学校教師によって確立した。その人ヤン・アモス・コメニウスは教授学者・思想家として名高いが、本務は国内外の学校におけるラテン語教育であった。筆者は彼の著した言語教科書、その指導書・理論書を原典に則して読み解き、さらにコメニウスが近現代の中央ヨーロッパの言語教育界にもたらしたものを、日本語教師の目を通して明らかにする。

言語学習における学習ストラテジーと動機づけ

理論と実践の創造的キュレーション
大和隆介著 A5判・978-4-8234-1116-8

AIによる翻訳によって外国語学習は不要になってしまうのか。本書は、言語学習の成否に大きな影響を与える「学習ストラテジー」と「動機づけ」に注目して、現代社会が求める、機械翻訳では代替できない統合的コミュニケーション能力を育成する英語教育の在り方について論じる。前半で2つのテーマにかかわる諸理論について創造的キュレーション(知的探索と整理)を行ない、後半では理論に関連した実証的研究と教育実践を報告する。

ゼロからはじめる数理的言語研究入門(仮)

近藤泰弘・小木曾智信・小磯花絵著
A5判・978-4-8234-1001-7

これからの言語学は、数理的な発想やそれを実現する工学的分析プログラムやツールを研究に使うことが重要になると思われる。しかしながら、日本の大学のこれまでの言語研究者を育成するプログラムには、これらを教える仕組みが十分には整っていない。関心を持って、初学者にはなかなか手が出しにくい状況が続いている。これからの言語学を担う若手言語研究者たちに数理的な言語研究の方法をデモンストレーションするワークショップを開催した。その内容の書籍化。

「気づき」をうながす文法指導(仮)

英語のアクティブ・ラーニング
島田勝正著 A5判・978-4-8234-1164-9

文法指導はどうあるべきか? 本書では、教師による一方的な文法説明に代わるものとして、アクティブ・ラーニングを導く課題解決型の文法指導を提案する。具体的には、第二言語習得過程の各々の段階に対応して、意識化指導、認知文法、ディスコース、インプット、アウトプット、タスク、訂正フィードバックの7つの観点から、「気づき」をうながす英語の文法指導の基盤となる理論を解説し、その実践例を紹介する。

読解力を高め自信をつける先行学習(仮)

決め手はあなたの指導技術
鍋木良夫著 A5判・978-4-8234-1154-0

授業を変えたいと思っている教員に、読解力が高まる習得から活用へと進む「先行学習」型の指導法と、いじめ予防にもつながる授業スキルを提供する。教える側の授業スキル次第で、生徒の読解力と人間力は大きく向上する。いつでもどこでも使える39の授業スキルを手にして指導力を高めよう。『もっとわかる授業を! 「先行学習」のすすめ』(高陵社、2015年)に大幅な改稿を加えた改訂増補版。

英日通訳翻訳における語順処理

順送り訳の歴史・理論・実践
石塚浩之編
A5判・978-4-8234-1176-2 定価7,400円+税

英語を日本語に訳す際には、統語構造の違いから、語順の逆

転が当然と思われがちである。一方、翻訳の実務や指導においては、語順を保持すべしとされることが多い。本書は、英語から日本語への通訳翻訳における語順処理の問題を多面的かつ包括的に論じた初の研究書であり、通訳翻訳の実務や英語教育における訳のあり方に新たな理論的視点を示す。執筆者：石塚浩之、稲生衣代、岡村ゆうき、小川陽香、辰巳明子、長沼美香子、畑上雅朗、平岡裕資、船山仲他、水野的、溝脇孝哲、山田優〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

消費者の向社会的行動原理 (仮)

カスタマー・ハラスメント予防のためのコミュニケーション・プラン
榎澤祐一著 A5判・978-4-8234-1187-8

カスタマー・ハラスメントが近年、注目を集めている。この問題に対しては企業から従業員への対処法教育が解決のアプローチとして主流とみられるが、元より問題が生じにくくするにはどうしたら良いのか。本書はマーケティング・コミュニケーションの観点から、サービス全般への適用可能な示唆を試みた。発達心理学の知見から仮説を設定し、エンタテインメント・イベントを題材に日本と中国で質問紙実験を実施した。

現代中国人が抱く「日本イメージ」の構造及びその規定要因 (仮)

社会心理学的アプローチ
江暉著 A5判・978-4-89476-950-2

本書は日中関係及び日本社会における対中世論の現状とその問題点を踏まえ、中国の一般国民が認識している「日本」の全体像を体系的・学術的に提示することを目的としている。「認知」と「評価」、「感情」、「行動意図」という4つの要素から中国人が抱く「日本イメージ」を再定義し、その構造内部における力学関係、またその形成過程において「内的心理要素」と「外的情報源」の種々の規定要因が果たしている役割を実証的に考察することを試みた。

サイエンスコミュニケーションとアート を融合する

奥本素子編
A5判・978-4-8234-1175-5 定価 5,000円＋税

先端的な科学技術が社会に実装される際に、その間をつなぐものがサイエンスコミュニケーションである。そこにアートを取り入れたとき、どのようなコミュニケーションが生まれるのか。本書ではアートとサイエンスコミュニケーションの交差の歴史を紹介しながら、アートを活用した活動のデザインについても触れていく。執筆者：奥本素子、仲居怜美、朴炫貞、室井宏仁〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

よりよいコミュニケーションのための日本語会話 (仮)

中級レベルからの学習者が学ぶ
小池真理・ヒルマン小林恭子・宮崎聡子著
B5判・978-4-8234-1147-2

中級学習者からの「会話が続かない」「相手の話はわかるが上手く応答できない」などの悩みの声に答える、自然で円滑な会話を展開できる力を養成する会話教材。会話の中で必要な

配慮とは何かを考え、話し手としてだけではなく、聞き手として相手の意図を汲み取り共感を示す方法を丁寧に学ぶことができる。語彙や表現を豊富にし自己表現できる練習、ロールプレイ、振り返り活動が各課に入り、学生にも社会人学習者にも役立つ教材。

目指せ！ 書ける大学生 (仮)

今さら聞けないレポート・論文、メールの書き方
澤村美幸・朴秀娟・新井由美著
B5判・978-4-89476-941-0

レポート・論文などの学術的文章から、電子メールといった実用的文章の書き方まで、大学生活を送る中で、「書くこと」に困った状況に幅広く対応。「レポートって何を書けばいいの?」「こんな時、先生にどんなメールを送ればいいのか?」と、多くの大学生がつまづいてしまうレポートやメールの初歩的問題を、親しみやすいマンガで分かりやすく紹介しながら解説する。大学生活に必要な「書く力」の基礎を身につけられる一冊。

文学研究の扉をひらく

基礎と発展
石川巧・飯田祐子・小平麻衣子・金子明雄・日比嘉高編
A5判・978-4-8234-1136-6

本書は、作品を「読む」というのはどのような行為なのかという問いから出発し、精緻に読解する方法と技術を習得するとともに、文学研究の知識、資料の集め方、分析の視点を習得するためのテキストである。基礎編「研究へのアプローチ」、実践編「批評理論を用いた分析」の全15章からなり、オンライン授業にも活用できる工夫を凝らした。執筆者：飯田祐子、石川巧、大木志門、大島丈志、小平麻衣子、金子明雄、川崎賢子、久米依子、高榮蘭、斎藤理生、佐藤泉、出口智之、内藤千珠子、日比嘉高、山口直孝

並行世界の存在論

現代日本文学への招待
加藤夢三著 四六判・978-4-8234-1181-6

なぜ(ある特定の)人びとは、ただひとつの現実世界に飽き足らず、並行世界というものに強く惹きつけられるのか。並行世界に思いを馳せるとはどういうことなのか。私たちにとって並行世界とはどのような意味を持つのか。本書は、こういった問いの枠組みを、哲学でも心理学でもなく自然科学でもなく、文学研究の立場から考えようとする試みである。それは、個別具体的な作品分析を通じて、並行世界という舞台設定が担う思想的な潜勢力を解き明かす企てともなるだろう。

中国語現代文学案内

中国・台湾・香港ほか
栗山千香子・上原かおり編 A5判・978-4-89476-960-1

今、中国や台湾にはどんな作家がいて、どんな作品を書いているの? 日本語で読みたいけれど、翻訳はあるの? —中国や台湾に関する本はたくさん出版されているが、こんな疑問に答えてくれる本が実はない。本書は、中国および台湾、香港、東南アジア等の代表的な中国語作家とその作品を紹介し、広い視点で中国語圏の現代文学を知ることができるよう

編まれた案内書である。作家ごとの「作家ファイル」や「作品データ」等を用意し、便利で信頼できるミニ事典としても利用できるような心がけた。

欧文タイポグラフィへの招待 (仮)

河野三男著 A5判・978-4-89476-963-2

「英語文書の種類と基本形式」について、表記の慣例と共に書籍の構成に即して解説しているタイポグラフィ(活字の扱い方)入門書。英米の定評あるスタイル・マニュアルを範としつつ、文科系の英語文を誤解なく読みやすく「活字で書く」方法を紹介。エディトリアル・デザインなど雑誌の組版や広告類にも通用する、デザインの要素の濃いディスプレイ用組版と特殊な組版も新たな章を設けて解説。注や参考文献で専門的情報を追加提供。〈書籍原稿の執筆にも有益。〉

新刊の紹介動画 YouTube で配信中

YouTube で著者の先生によるご著書の紹介動画やスタッフによる本の紹介動画を公開中です。ぜひご覧ください。



上の動画はこちらからご覧いただけます。



https://www.youtube.com/channel/UCT8t_l8nBbAMB1boi71s-4w

テキストのご案内

■テキストレベルのめやす

テキストの内容のレベルをおおまかに4段階にわけて示します。

より
専門的



より
入門的



日本語学	英語学	言語学一般・言語教育	スタディスキル	日本語教材・文学他
ガイドブック日本語文法史 ガイドブック方言研究 ガイドブック文章・談話 ガイドブック日本語史 ガイドブック日本語史調査法			Writing for Academic Purposes 英語科学論文をどう書くか	ひとりでも学べる日本語の発音
改訂版 日本語要説 基礎日本語学 日本語の文法	Linguistics Meaning and the English Verb Language Change ベーシック英語構文文法 ファンダメンタル音声学 ファンダメンタル英語学演習	ベーシック応用言語学 改訂版 社会言語学 📌 新版 社会言語学図集 言語人類学への招待 問題を通して学ぶ 生成文法 場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック フィールドワークではじめる言語学 📌	これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版 ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 卒業論文マニュアル 日本近現代文学編 📌	「大学生」になるための日本語 よりよいコミュニケーションのための日本語会話(仮) 🍊 文学研究の扉をひらく 🍊
新ここからはじまる日本語学 ここからはじまる日本語文法 ここからはじまる文章・談話 ベーシック現代の日本語学	ベーシック新しい英語学概論 ベーシック英語史 ファンダメンタル英語学改訂版 ファンダメンタル英語学改訂版 ファンダメンタル英文法	ファンダメンタル認知言語学 ベーシック生成文法 ベーシック語彙意味論 ベーシックコーパス言語学 第2版 ベーシック日本語教育 使える日本語文法ガイドブック	ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション グループワークで日本語表現力アップ 協働で学ぶクリティカル・リーディング アカデミックプレゼンテーション入門	そのまんまの日本語 出会い 学びのエクササイズ文学理論 テキスト分析入門 文学理論入門
学びのエクササイズ日本語文法		学びのエクササイズことばの科学 学びのエクササイズ認知言語学 学びのエクササイズ子どもの発達とことば 学びのエクササイズレトリック 探検！ことばの世界	失敗から学ぶ大学生のレポート作成法 はじめよう、ロジカルライティング 日本語を書くトレーニング 日本語を話すトレーニング	日本語がいっぱい 小説を読むための、そして小説を書くための小説集 昭和の文学を読む 📌 ネット時代の中国語

ここに挙げているのは一部のテキストです。

📌 マークは新刊、🍊 マークは近刊です。

● 日本語学

基礎日本語学

衣畑智秀編

A5判・352頁・3刷・978-4-89476-946-5
定価1,800円+税 発行2019.2

過不足のない記述で日本語学の諸分野を包括的にカバーし、日本語学を学びたい、または知りたいと思ったときに、まず一番初めに手にとるべき日本語学入門の決定版。



新ここからはじまる日本語学

伊坂淳一著

A5判・344頁・5刷・978-4-89476-710-2
定価1,800円+税 発行2016.12

入門テキストとして好評を博した1997年初版を大幅改訂。近年の言語資料を追加し、内容を全面的に改めた。現代の生きた言葉遣いを出発点に、日本語の仕組みを考える。■ Kindle版も発売中。



ベーシック現代の日本語学*

日野資成著

A5判・242頁・5刷・978-4-89476-438-5
定価1,700円+税 発行2009.4

大学の学部生を対象とした日本語学への入門教科書。分野は音声学・音韻論・意味論・語用論・日本語文法・社会言語学に渡り、学生の興味を引く新しい内容を導入した。



改訂版 日本語要説

仁田義雄ほか著

A5判・348頁・8刷・978-4-89476-468-2
定価1,900円+税 発行2009.6

好評を博した1993年の初版以降の研究動向を踏まえ、内容、装丁共に改訂。日本語のしくみや主要な事柄を、幅広いフィールドから知ることができる1冊。



ここからはじまる日本語文法

森山卓郎著

A5判・264頁・11刷・978-4-89476-174-2
定価1,800円+税 発行2000.3

日常的なことばから考えていく日本語の文法のテキスト。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときにも便利。



日本語の文法*

高橋太郎ほか著

A5判・320頁・7刷・978-4-89476-244-2
定価2,400円+税 発行2005.4

日本語の文法のテキスト。教材としてのみならず、参加している著者の文法理論が手短にまとめられており、読み進めるうちに日本語文法の全体を学ぶことが出来る。



ガイドブック方言研究

小林隆・篠崎晃一編

A5判・248頁・8刷・978-4-89476-183-4
定価1,800円+税 発行2003.2

最近の方言研究の成果をふまえた方言学のテキスト。方言のしくみを扱った章を中心に、「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」「参考文献」といった具体的な研究の手順を示した方言研究の入門書。



ガイドブック日本語文法史

高山善行・青木博史編

A5判・216頁・5刷・978-4-89476-489-7
定価1,900円+税 発行2010.4

「モダリティ」「係り結び」など日本語文法史の基本テーマをわかりやすく解説。日本語学だけでなく言語学、日本語教育、国語教育、古典文学など、幅広いニーズに応える。



ガイドブック日本語史

大木一夫著

A5判・264頁・4刷・978-4-89476-615-0
定価2,200円+税 発行2013.5

通史としてではなく言語の歴史を明らかにするさまざまな方法からみた日本語史の概説書。日本語を例にして、言語の歴史を明らかにする方法を多面的・総合的に概説する。■ Kindle版も発売中。



ガイドブック日本語史調査法

大木一夫編

A5判・328頁・978-4-89476-854-3
定価2,600円+税 発行2019.5

古い文献のことばから日本語の歴史を解明するための調査法マニュアル。文献の内容の読み取り方や、証拠の集め方などを具体的に説明する。日本語史の演習や卒業論文に最適。



ここからはじまる文章・談話

高崎みどり・立川和美編

A5判・276頁・3刷・978-4-89476-345-6
定価2,000円+税 発行2008.4

ケータイメールやブログ、狂言や『電車男』など日常のあらゆる場面で使用されることばをとりあげ分析する方法を学ぶ。もっとも新しい文書・談話についてのテキストブック。



● 英語学

ファンダメンタル英語学 改訂版*

中島平三著

A5判・160頁・7刷・978-4-89476-575-7
定価1,400円+税 発行2011.8

英語学入門テキストとして好評の1995年初版を大幅改訂。新たな分析法や説明法を追加。英語学の中核をなす統語論・形態論・音韻論・意味論の基礎を簡潔・丁寧に提示する。



ファンダメンタル英語学演習*

中島平三著

A5判・128頁・3刷・978-4-89476-519-1
定価1,600円+税 発行2011.2

英語の構文交替などを題材に、英語やことばを研究する際の問題発見と解決の方法を学ぶ。多くの人が英語を学んだ時に抱いたであろう疑問に取り組む、英語学の基礎テキスト。



ファンダメンタル英語史 改訂版*

児馬修著

A5判・168頁・2刷・978-4-89476-877-2
定価1,600円+税 発行2018.1

英語史入門書として好評の1996年初版を改訂。本文の加筆修正に加え、練習問題も改めた。歴史的言語変化のメカニズムを通して様々な言語学的事象への理解を深める1冊。



ファンダメンタル音声学*

今井邦彦著

A5判・240頁・5刷・978-4-89476-279-4
定価2,400円+税 発行2007.5

ロンドン大学音声学科から英語発音技能第一級証明書、国際音声学協会から音声学技能第一級証明書を授与された著者が、音声学の理論に基づく「正しい」英語の発音を伝授。CD-ROM付。



ベーシック英語史

家入葉子著

A5判・138頁・6刷・978-4-89476-349-4
定価1,600円+税 発行2007.3

英文法の不規則さは歴史によるものが多い。少し歴史を知っていれば、英語に対する恐怖感もずいぶん変わるのではないだろうか。英語を学ぶ人びとと全てのための本。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著

A5判・248頁・978-4-89476-940-3
定価1,800円+税 発行2019.10

近年注目を浴びる構文文法について、体系的に統括した日本では初めての概説書。構文文法の理論全体を体系的に捉えようとしている点に特徴があり幅広いテーマを扱う。



ベーシック新しい英語学概論*

平賀正子著

A5判・228頁・6刷・978-4-89476-554-2
定価1,700円+税 発行2016.1

異文化コミュニケーションという視点から、母語英語・国際英語の両面から、今や世界の共通語として認識される英語について概説する新しいタイプの英語学概論教科書。■Kindle版も発売中。



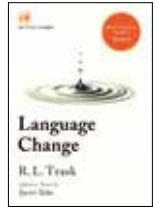
Hituzi's Linguistics Textbook Series 3

Language Change

R. L. Trask 著 家入葉子注訳

菊判・144頁・978-4-89476-999-1
定価1,700円+税 発行2019.12

現代英語を含む英語の歴史的变化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説した原著に日本語の注釈をつけたテキスト。原著のエクササイズと注釈で追加された練習問題により、英語史を主体的に学び、現代英語の変化と多様性への感覚を磨くことができるよう工夫されている。比較的容易な英語で書かれている。



● 言語学

学びのエクササイズことばの科学

加藤重広著

A5判・148頁・7刷・978-4-89476-336-4
定価1,200円+税 発行2007.3

ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱う。



学びのエクササイズ認知言語学

谷口一美著

A5判・144頁・7刷・978-4-89476-282-4
定価1,200円+税 発行2006.4

認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、15章構成で認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ入門書。



ファンダメンタル認知言語学

野村益寛著

A5判・208頁・2刷・978-4-89476-608-2
定価1,600円+税 発行2014.5

言語とは、世界を〈意味〉として捉える認知の営みを可能にする記号の体系である。認知言語学の基本を、英語および日本語の語彙・文法の現象を通して紹介する入門テキスト。



ベーシック生成文法

岸本秀樹著

A5判・160頁・6刷・978-4-89476-426-2
定価1,600円+税 発行2009.3

英語だけでなく日本語の言語現象を通して、生成文法の考え方を学ぶことができ、人文系以外の学生にも、文法について考えるきっかけを与えることを意図する、学部生向けの教科書。本書を基にした英語版 *Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective* も刊行。

■ Kindle 版も発売中。



新版 社会言語学図集

日本語・英語・中国語・韓国語解説

真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯編

A5判・296頁・978-4-89476-942-7

定価2,500円+税 発行2021.11

社会言語学の各領域におけるトピックごとに、裏付けとなったデータの図表と、日本語と英語・中国語(繁体字)・韓国語の解説を加えた。外国語学習としても活用できるテキスト。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著

A5判・288頁・978-4-8234-1093-2

定価1,700円+税 発行2021.3

英語と日本語コーパスの両者に目配りしつつ、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法について、コーパス言語学を初学者にも分かりやすく平易に解き明かす。



言語人類学への招待

ディスコースから文化を読む

井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著

A5判・264頁・2刷・978-4-89476-965-6

定価2,400円+税 発行2019.7

アメリカ合衆国を発祥の地とし発展してきた言語人類学の概説書。ことばの使用実践から多様な言語観・世界観を明らかにし、変わりゆく文化社会を捉えるための視座を提供する。■ Kindle 版も発売中。



ベーシック応用言語学

L2の習得・処理・学習・教授・評価

石川慎一郎著

A5判・368頁・978-4-89476-795-9

定価1,800円+税 発行2017.3

個別的に論じられることの多かった、第2言語(L2)の習得・処理・学習・教授・評価の問題を統合的に位置づけ、平易な解説で幅広い知識の必要な応用言語学の全体像を示す。



● 英語学習

Critical Reading through Collaborative Learning*

館岡洋子監修 津田ひろみほか著

B5判・128頁・978-4-89476-930-4

定価2,200円+税 発行2019.3

協働学習で学ぶ英語リーディングのテキスト。様々なメディアから厳選した英文記事を収録。学習者が身近に感じられる話題をとおして英語によるアクティブラーニング型授業を提案する。



学びのエクササイズ子どもの発達とことば

伊藤崇著

A5判・160頁・978-4-89476-855-0

定価1,600円+税 発行2018.5

家庭内での会話や学校での授業など、0歳から18歳までの子どもが出会う多様な社会的場面で起こるコミュニケーションから、言語発達過程にひとつの筋道を読み解く。



脱文法 100トピック 実践英語トレーニング

中山誠一ほか著

A5判・320頁・4刷・978-4-89476-858-1

定価1,600円+税 発行2017.5

文法の知識に頼らない「瞬間トランスレーション法」という独自の手法をとりいれ、「食」「旅行」「テクノロジー」など100種類的话题を収録した、英語実践練習のテキスト。



改訂版 社会言語学

基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・368頁・2刷・978-4-8234-1143-4

定価2,200円+税 発行2022.3

社会言語学の成り立ちから最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析、言語人類学、批判的談話分析などのテーマの解説も充実。



● スタディスキル

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法*

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

B5判・132頁・5刷・978-4-89476-970-0

定価1,600円+税 発行2019.4

大学初年次を対象としたレポート作成法のテキスト。学生が失敗しがちな例を挙げながら、レポートにふさわしい表記、引用ルールから作成プロセスまで基礎から段階的に学ぶ。■ Kindle 版も発売中。



日本語を書くトレーニング*

野田尚史・森口稔著
A5判・128頁・2版4刷・
978-4-89476-177-3
定価1,000円+税 発行2014.12

変化した学生生活や時代に合わせてアップデートした定番テキストの改訂版。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく作り直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。■ Kindle版も発売中。



日本語を話すトレーニング*

野田尚史・森口稔著
A5判・128頁・6刷・978-4-89476-210-7
定価1,100円+税 発行2004.3

日本語を話すときに、なるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかを普通の人あまり上手に話していない音声聞くことにより考える。



これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著
A5判・274頁・2刷・978-4-8234-1089-5
定価2,000円+税 発行2021.2

「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能や文献研究、テーマの設定から論文の評価まで段取りをマスターできる。■ Kindle版も発売中。



Writing for Academic Purposes

英作文を卒業して英語論文を書く

田田野彰ほか編
A5判・216頁・4刷・978-4-89476-490-3
定価2,000円+税 発行2010.4

大学・大学院生対象の英語論文の書き方ガイド。論文の構造や概念の解説、資料収集法、読書法など幅広い視点から、論文を作成するために必要なスタディスキルの向上を図る。



英語科学論文をどう書くか

新しいスタンダード

保田幸子著
B5判・232頁・978-4-8234-1080-2
定価2,400円+税 発行2021.11

英語科学論文執筆のためのガイドブック。科学論文に関する様々な伝統的通説を反証し、新しい科学論文執筆法を解説する。読み手を引き付ける論文のコツを網羅的に学べる一冊。



ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション*

プレゼンテーションとライティング

大島弥生ほか著
B5判・168頁・4刷・978-4-89476-471-2
定価1,500円+税 発行2012.2

大学入学後の初年次教育や入試・編入の小論文指導などに適した活動型教科書。本を批判的に分析するグループワーク等、各課のタスクをピア活動を通じて行う。練習問題も豊富。■ Kindle版も発売中。



ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版*

プロセス重視のレポート作成

大島弥生ほか著
B5判・150頁・7刷・978-4-89476-709-6
定価1,600円+税 発行2014.7

相手に伝わるレポートの書き方・発表のし方を身につけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適。第2版の主な変更点は本書ホームページ参照。 <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-709-6.htm>
■ Kindle版も発売中。



グループワークで日本語表現力アップ*

野田春美ほか著
A5判・176頁・5刷・978-4-89476-802-4
定価1,400円+税 発行2016.3

グループワークを活用した大学初年次向けの文章表現のテキスト。文章表現の基本的な知識や姿勢からレポート執筆まで、豊富な課題で楽しく学び、効果的に習得できる。



はじめよう、ロジカル・ライティング*

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校
国語科著 執筆協力・戸田山和久
B5判・224頁・5刷・978-4-89476-700-3
定価1,600円+税 発行2014.5

『論文の教室』の戸田山和久名古屋大学教授と意見交換しながら作った、中学生から社会人までを対象とする日本語表現の教科書。「論理的」とはどういうことかに始まり、他者の意見やデータを分析し、自己の主張や提案につなげるまでを身につける。



● 文学

学びのエクササイズ文学理論★

西田谷洋著

A5判・168頁・3刷・978-4-89476-703-4
定価 1,400円＋税 発行 2014.4

文学を読む、論じるための主要な理論を15の章に分け解説。国内外の研究成果をコンパクトにまとめ、興味のある章から文学理論とはどのようなものかを知ることができる一冊。



テキスト分析入門

小説を分析的に読むための実践ガイド

松本和也編

A5判・264頁・4刷・978-4-89476-836-9
定価 2,000円＋税 発行 2016.10

小説はストーリーや主題を読むだけではない。小説を構成することばが、どのように小説の面白さを作り出しているのか、その仕掛けや技術を分析する方法を具体的に解説。



文学理論入門

論理と国語と文学と

疋田雅昭著

A5判・272頁・978-4-8234-1104-5
定価 2,200円＋税 発行 2021.11

高校の現代文が文学的文章と論理的文章に「分離」されることとなった。これらを有機的に組み合わせるべく、新たな国語教育の可能性を模索する文学理論入門。



小説を読むための、そして小説を書くための小説集

読み方・書き方実習講義

桑原丈和著

四六判・244頁・978-4-89476-945-8
定価 1,900円＋税 発行 2019.4

語り論・読者論・インターテクスチュアリティなどの文学理論の基礎をふまえて、実際に短篇小说を読み、またそのパロディを書くことを通して書き方を学んでいく。



● 日本語教育

ベーシック日本語教育

佐々木泰子編

A5判・336頁・10刷・978-4-89476-285-5
定価 1,900円＋税 発行 2007.4

コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。



そのまんまの日本語

自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

B5判・140頁・978-4-89476-921-2
定価 2,000円＋税 発行 2020.3

実際の談話をもとに、わざとらしくない本物の会話で作った中級学習者向けの日本語会話教科書。日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。音声CD付。■ Kindle版も発売中。



日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い【本冊 テーマ学習・タスク活動編】★
【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著
本冊：B5判・224頁・4刷・

978-4-89476-758-4

定価 3,000円＋税 発行 2015.5

別冊：B5判・144頁・4刷・

978-4-89476-801-7

定価 1,800円＋税 発行 2016.3

テーマとタスクを融合させた新しい中級日本語総合教科書。本冊は留学生として一度は考えて欲しい、日本社会・文化に関する6つのテーマと、テーマ理解を深めるための4つのタスクから成る。別冊は、本冊でのテーマ学習とタスク活動に必要な文型や話し言葉の表現・ストラテジーを取り上げ、本冊だけでは明示的に学べない言語知識が補完できるようになっている。

■ Kindle版も発売中。



「大学生」になるための日本語1・2

堤良一・長谷川哲子著

1：B5判・192頁・4刷・

978-4-89476-435-4

定価 1,900円＋税 発行 2009.10

2：B5判・252頁・3刷・

978-4-89476-462-0

定価 1,900円＋税 発行 2010.11

日本の大学進学希望の日本語学習者対象にしたテキスト。生教材をもちいた読解文、より自然な会話を目指した聴解CD、豊富なタスクの練習により四技能を総合的に養える1冊。■ Kindle版も発売中。



書名の最後に★印のあるものには、授業のためのヒントや解答をご用意しております。ここに掲載したもの以外のテキストについては、下記のURLをご覧ください。ご採用をご検討くださいます場合には、採用見本をお送りします。別紙の採用見本請求書をご利用下さい。

<https://www.hituzi.co.jp/saiyou/index.html>

電子教科書について

教科書の電子化をすすめています。電子教科書と取り扱い書店は順次増やしていく予定です。電子化のリクエストをおよせください。

■ 電子教科書タイトル一覧

- 2022年10月時点での電子教科書一覧です。
- 著者名の後に電子書店・媒体を記しています。

新ここからはじまる日本語学 伊坂淳一著

Kindle

ガイドブック日本語史 大木一夫著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版

プロセス重視のレポート作成 大島弥生ほか著
Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション

プレゼンテーションとライティング 大島弥生ほか著
Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著
Kindle / Google Play ブックス

日本語を書くトレーニング 野田尚史・森口稔著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

ベーシック生成文法 岸本秀樹著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

★ *Analyzing Japanese Syntax* も Kindle 版発売中。

ベーシック新しい英語学概論 平賀正子著

Kindle / Google Play ブックス

これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15 週間
佐渡島紗織・吉野亜矢子著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

言語人類学への招待

ディスコースから文化を読む
井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著
Kindle

そのまんまの日本語

自然談話コーパスの会話で学ぶ
遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著
Kindle / Google Play ブックス

日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い 【本冊 テーマ学習・タスク活動編】
【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著
Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

「大学生」になるための日本語 1・2

堤良一・長谷川哲子著
Kindle

使える日本語文法ガイドブック

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ
中西久実子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子著
Kindle / Google Play ブックス

ひとりでも学べる日本語の発音

OJAD で調べて Praat で確かめよう
木下直子・中川千恵子著
Kindle / Google Play ブックス

■ 電子書店

〈個人の方向け〉

- Kindle (Amazon.co.jp / Amazon.com)
- Google Play ブックス (Google)
- Knowledge Worker (丸善雄松堂) など

〈教育機関向け〉

- Maruzen eText Service (丸善雄松堂)

→ 教室・講座単位での電子教科書配信サービス。

教科書以外の電子本や電子書店の詳細はこちらからご覧ください。
<https://www.hituzi.co.jp/ebook/>



雑誌「日本文学」発売中

日本文学研究および国語教育の今日的な課題を追求する日本文学協会発行の機関誌。日本文学と国語教育にかかわる研究論文・実践報告・エッセイ等を掲載しています。月刊。

2022年5月号 中世文学と東国／7月号 近世文学における知の集積と拡張／8月号 学籍のある会員による論文／9月号 近現代社会と変容する身体／10月号 「文字」と「声」の往還

※弊社では直接販売しておりませんので、ご注文は、お近くの書店または日本文学協会 (<http://nihonbungaku.server-shared.com/>) までお願いいたします。



製作協力した電子学術雑誌

ひつじ書房は、編集を行っていませんが、今後、学術情報の発信に際し、電子的な発信が求められることがあると考えて製作を協力しました。動画や音声、詳細な画像などを扱った学術成果の発表の場を作りたいと考えています。

日本語音声コミュニケーション 10 (日本語音声コミュニケーション学会)

目次

日本語母語話者と日本語学習者の終助詞「ね」のイントネーション産出(鄭穎)／日中母語話者の参与形態均衡性の異なり社内ウェブミーティングにおける同調アフォードランスの量的比較に基づく考察(楊一林)／研究ノート 政治家の「非流暢な発話」と映像編集(宿利由希子)

ひつじ書房ウェブマガジン 未草 (ひつじぐさ)のご案内

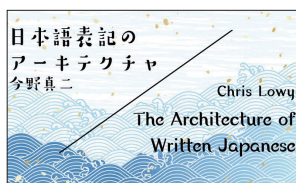
言語や文学ほか、ことばに関わる幅広いテーマについて連載をしています。



◇新連載

<https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/>

日本語表記のアーキテクチャ 今野真二・Chris Lowy (2022年10月現在、第2回まで連載更新中)



「正書法 (orthography)」のない日本語表記についての分析、考察を行う。日本語の「書記」「表記」という用語、概念、あり方については、カオス的と考えられていて、個別の現象の分析に留まっているのが現状といえる。その研究の現状を打開する手立てとして日本語表記について「アーキテクチャ」という視点を持ち込み、分析し直すところみの連載。今野先生と Chris Lowy 先生による連載を開始。

今、実践の記録から、熟議という話し方をふりかえってみる 吉田省子



対話の場での最重要行動指針は互いに聴きあうことで、場自体やプロセスには知識や地位による上下関係や二項対立を持ち込まないことだった。……本連載の目的は、熟慮を片手に熟議の扉を開けることは今こそ必要だという希望を語るために、熟議という話し方を実践の記録から振り返ることにある。

「第1回 騙らずに語ることはできるのか」(2022.10.20)より

◇連載中

場所によるものの呼び方の違い、日本列島あちこち、方言アレコレ 岸江信介／「現代の国語」と「言語文化」の問題点 清田朗裕／〈社会システム〉として言語教育を観察していく 新井克之／句読法、テンマルルール わかりやすさのきほん 岩崎拓也／少なすぎる公共図書館の資料費 山重壮一／外国人労働者の受け入れに日本語教育は何ができるか 田尻英三／言語展示学～ことばの宇宙を届けたい 菊澤律子／BOOK REVIEW: STRAY SHEEP(書評)

いま、

感動詞研究が熱い!

新刊の感動詞研究関連の書籍の紹介です。既刊も合わせて、この機会にぜひお求めください。

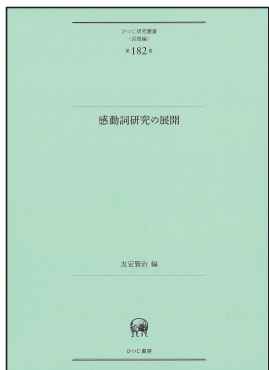
ひつじ研究叢書(言語編) 第182巻

感動詞研究の展開

友定賢治編 A5判・352頁・978-4-8234-1065-9

定価6,800円+税 2022年3月刊行

執筆者: 井上優、金田純平、金水敏、小林隆、定延利之、
富樫純一、友定賢治、中西太郎・林青樺、仁科陽江、
野田尚史、森山卓郎、楊虹、羅希、劉伝霞・有元光彦



感動詞化のメカニズムの対照研究、「おっと」「えーと」など「と」系感動詞の意味・用法、役割語における感動詞、日本語学習者の応答表現、など感動詞研究の広がりや深化を示す論文で構成されている。感動詞の魅力と研究の可能性が感じられる一冊。

全国調査による感動詞の方言学

小林隆編 A5判・978-4-8234-1167-0

定価5,000円+税 2022年11月刊行

執筆者: 有元光彦、勝又琴那、川崎めぐみ、榎引祐希子、
小林隆、坂喜美佳、作田将三郎、椎名渉子、竹田晃子、



田附敏尚、津田智史、友定賢治、中西太郎、船木礼子、松田美香

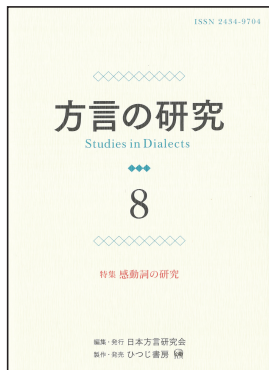
全国1000地点規模の調査データを分析することで、感動詞の全国的な地域差を明らかにしようとする。狭義の感動詞に留まらず、生理音的な発声や動作のかけ声なども対象にする。

方言の研究 8 特集 感動詞の研究

日本方言研究会 A5判・356頁・978-4-8234-1130-4

定価5,000円+税 2022年7月刊行

執筆者: 有元光彦、稲熊詩帆、今村かほる、岩城裕之、
工藤真子、後藤典子、小西いずみ、小林隆、澤村美幸、
下野雅昭、杉村孝夫、武田拓、田附敏尚、友定賢治、



日高貢一郎、船木礼子、松田謙次郎、松田美香

特集は、第111回研究会のシンポジウム「感動詞の世界」の発表をふまえ、さらに内容を充実させたものとなっている。方言感動詞研究の展望や、感動詞の体系、調査法・資料、地域差など、8本の特集論文を掲載。

※既刊のおすすめ※

ひつじ研究叢書(言語編) 第102巻

感動詞の言語学

友定賢治編 A5判・290頁・978-4-89476-612-9

定価4,800円+税 2015年

「げつ」「まあ」といった感動詞に焦点を当て、方言や実際の言語使用の場面での様相を捉えた、初の論文集である。これからの感動詞研究を見据え、その広がりや奥深さを示す。

感性の方言学

小林隆編 A5判・368頁・978-4-89476-898-7

定価5,200円+税 2018年

「ジェジェジェ」「ノロノロ」など、方言は感動詞など感性の言葉の宝庫である。それを生み出す機構や発想を明らかにする論文集。

方言学の未来をひらく

オノマトペ・感動詞・談話・言語行動

小林隆・川崎めぐみ・澤村美幸・椎名渉子・中西太郎著

A5判・424頁・978-4-89476-852-9 定価5,800円+税 2017年

感動詞などの方言学の新分野に初めて触れる人たちのために、方法論や資料論を検討しながら実践例を示す。